NEC

ViewTalk Light

取扱説明書

ND－22093(J)第 13 版

© NEC Infrontia Corporation 2002 - 2008

目 次

1　はじめに 4

2　ViewTalk Lightの機能 5

2.1 ViewTalk Lightの形状 5

2.2 着信 5

2.3 発信 5

2.4 連続発信 6

2.5 保留・保留解除 6

2.6 通話記録 6

2.7 ポップアップ画面（顧客情報フォーム）の転送 7

2.8 通話録音メッセージの投函（ボイスメール） 7

2.9 番号候補検索 8

2.10　通話の録音・再生 8

2.11　メール送信 9

3　推奨動作条件 10

4　ViewTalk Lightのインストール 12

4.1 セットアップ時のご注意 12

4.2 ViewTalk Lightのインストール 12

4.3 Microsoft Accessサンプルデータベースファイルのインストール 19

4.4 ViewTalk Lightのアンインストール 23

5　ご使用方法 25

5.1 ViewTalk Lightの起動及び終了方法 25

5.2 環境設定 30

5.3 メインメニュー 40

5.4 顧客情報の登録 42

5.5 社員情報の登録 46

5.6 着信 47

5.7 発信.....51

5.8 連続発信.....52

5.9 ワンタッチボタン.....53

5.10 保留・保留解除.....58

5.11 通話記録.....59

5.12 応対記録.....61

5.13 通話の録音・再生.....62

5.14 転送.....71

5.15 簡単ダイヤル.....73

5.16 メール送信.....78

5.17 Microsoft Access サンプルデータベースファイルについて.....93

5.18 不応答着信記録.....103

6 ご使用上の注意.....104

6.1 データベースのバックアップ.....104

6.2 ViewTalk Lightご使用上の注意.....104

6.3 主装置の機能についての注意.....104

1　はじめに

ViewTalk Light は、NEC インフロンティア製の Aspire または Asprie　X システム（以下「主装置」といいます。）と組み合わせて使用するテレフォニーアプリケーションです。

データベースアプリケーションと組み合わせて、電話の着信時に相手の電話番号や名前の表示をしたり、データベース上の電話番号に連続して発信することを可能にする、電話の発着信サポートアプリケーションです。

使用可能なデータベースアプリケーションは、Microsoft® Access 2000、Microsoft® Access 2002、Microsoft® Access 2003 、Microsoft® Access 2007 です。（ただし Microsoft® Access 2007 形式(拡張子が accdb)のファイルには対応しておりません。）

ViewTalk Light は、パソコンの画面で他のアプリケーションを使用しているときにも邪魔にならないツールバー形式のアプリケーションです。

お客様がすぐにデータベースを作成してお使いいただけるよう Microsoft® Access の VTL 顧客管理データベースファイル（顧客情報管理用）を添付しています。

また、お客様が既にご使用中の Microsoft® Access のデータベースもしくは、市販の Microsoft® Access 用アプリケーション等をご利用になることも可能です。

Aspire X システムで使用するには以下製品の 1st Party CTI ドライバをインストールする必要があります。

・IP3D-TSP-1 (1st/3rd Party CTI ドライバ) ･･･････････････････ LAN インターフェイス

Aspire 対応製品には以下のものがあります。

・IP1D-CTA セット　･･･････････････････････････････････RS-232C インターフェイス
・IP1D-CTU セット　･･･････････････････････････････････USB インターフェイス
・IP1D-TSP1-L1 (1st Party CTI (LAN)ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱ) ････LAN インターフェイス

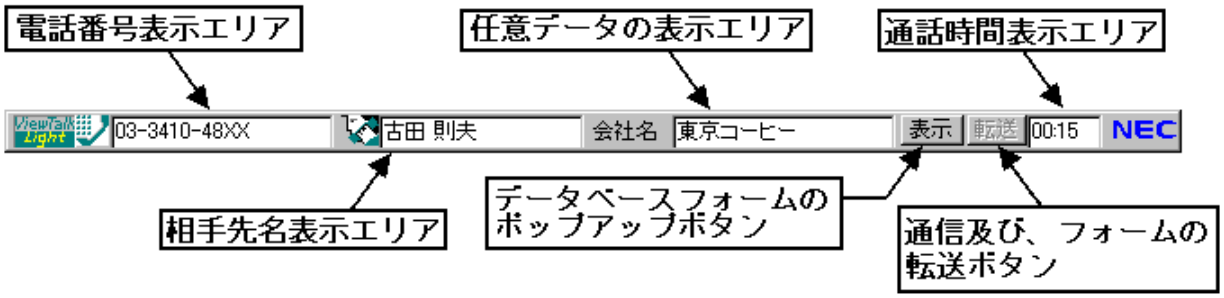
※ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
なお、本文では™、© 、® マークは明記しておりません。

2　ViewTalk Lightの機能

2.1　ViewTalk Lightの形状

ViewTalk Light は下の図のようなツールバー形状となっています。

このツールバーはパソコンの画面上の任意の箇所に配置するか、もしくは、画面の上または下に貼り付かせて置くことができます。



2.2　着信

着信時には電話番号表示エリアに発信者番号を表示します。

また、データベース検索の設定がされている場合には、発信者番号をもとにデータベース検索を行い、該当するデータをツールバーに表示させることができます。

添付の Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを使用し、顧客情報フォームから、着信に応答することや、通話を切断することができます。

2.3　発信

発信時には電話番号表示エリアに発信中の電話番号を表示します。

また、データベース検索が設定されている場合には、発信中の電話番号をもとにデータベース検索を行い、該当するデータをツールバーに表示させることができます。

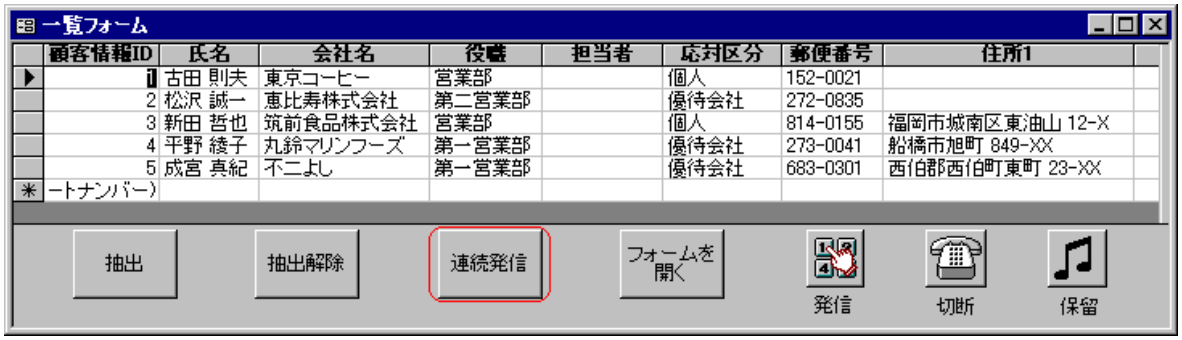
添付の Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを使用し、顧客情報フォームから会社の電話番号に発信することや、通話の切断をすることができます。

2.4　連続発信

データベース上の数多くの顧客データをもとにした複数の宛先への連続した発信が可能です。

リストアップした顧客電話番号に対して、次から次へと連続して発信処理を行うことが可能です。

添付の Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを使用し、顧客データを各種条件で抽出し、顧客データを絞り込んでの連続発信ができます。


一覧フォーム
顧客情報ID 氏名 会社名 役職 担当者 応対区分 郵便番号 住所1
1 古田 則夫 東京コーヒー 営業部 個人 152-0021
2 松沢 誠一 恵比寿株式会社 第二営業部 優待会社 272-0835
3 新田 哲也 筑前食品株式会社 営業部 個人 814-0155 福岡市城南区東油山 12-X
4 平野 綾子 丸鈴マリンフーズ 第一営業部 優待会社 273-0041 船橋市旭町 849-XX
5 成宮 真紀 不二よし 第一営業部 優待会社 683-0301 西伯郡西伯町東町 23-XX
抽出
抽出解除
連続発信
フォームを開く
発信
切断
保留

2.5　保留・保留解除

添付の Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを使用し、現在ツールバーに表示されている通話を保留・保留解除することができます。

2.6　通話記録

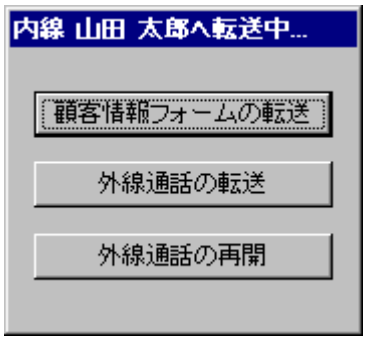
着信や発信による通話の電話番号や相手先名、通話時間等の通話記録をデータベースに記録することができます。

また、応答できなかった着信（不応答着信）も記録することができます。

通話記録から発信(コールバック)を行うことができます。

2.7　ポップアップ画面（顧客情報フォーム）の転送

外線通話の内線間転送及び、LAN で接続された他のクライアントへ Microsoft Access の顧客情報フォームの転送をすることができます。



2.8　通話録音メッセージの投函（ボイスメール）

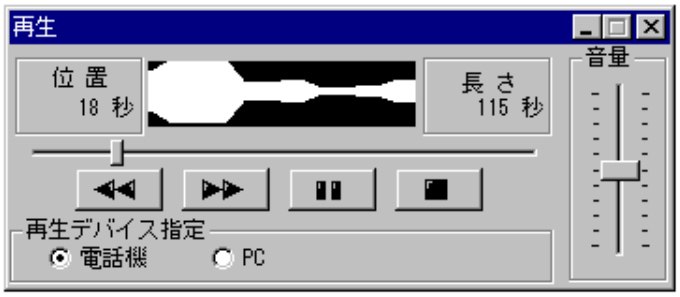
あらかじめ主装置側で通話の自動録音を設定しておくことで、ボイスメールの通話録音メッセージを、指定した BOX に投函することができます。

2.9　番号候補検索

検索でヒットしなかった場合、発信者番号に近い番号を表示することができます。
代表を組んだ会社などからの着信に有効です。

2.10　通話の録音･再生

通話内容を録音し、PCM 形式の wave ファイルとしてパソコンに保存して、応対記録･通話記録に添付したり、録音内容を再生することができます。



※　Aspire X システムの場合は ADA-L ユニットをご使用の場合に限り、本機能を使用することができます。
（ADA-L ユニットを使用する場合はパソコンのオーディオデバイスが必要です。）

※　Aspire システムの場合は CTU ユニットをご使用の場合に限り、本機能を使用することができます。

2.11 メール送信

添付の Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを使用し、データベースに登録された情報を利用して、顧客や社員へのメール作成・送信操作を簡単に行うことができます。例えば、顧客から電話を受けた際に、外出中の担当者への連絡手段としてご使用いただくことも可能です。

また、携帯電話にメール送信する場合、本文内に電話番号を挿入することにより、メールを受信した側で、携帯電話のメールの画面上に表示されている電話番号に簡単な操作で電話をかける機能を利用することができます。ただし、メールの画面上で電話番号と判別する表記は携帯電話の種類により異なりますので、本文作成の際は、ご使用の携帯電話の機能をご確認ください。

3　推奨動作条件

①使用可能 OS:

Microsoft Windows 2000　Professional 日本語版（Service Pack 4 以降）
Microsoft Windows 2000　Server 日本語版（Service Pack 4 以降）
Microsoft Windows XP Home Edition 日本語版（Service Pack 2 以降）
Microsoft Windows XP Professional 日本語版（Service Pack 2 以降）
Microsoft Windows Vista Home Basic 日本語版
Microsoft Windows Vista Home Premium 日本語版
Microsoft Windows Vista Business 日本語版
Microsoft Windows Vista　Enterprise 日本語版
Microsoft Windows Vista　Ultimate 日本語版

※ Windows の地域設定は、必ず”日本語”でご使用下さい。
その他の地域にした場合には、正しく画面表示されない場合があります。
※ Microsoft Windows Vista でご使用になる場合は、ユーザーアカウント制御(UAC)を無効化する必要があります。(詳細は次のページを参照してください。)

②動作するデータベースアプリケーション:

Microsoft Access 2000 (Office Service Pack3 以降)
Microsoft Access 2000 ランタイム版（Office Service Pack3 以降）
Microsoft Access 2002、Microsoft Access 2003、
Microsoft Access 2007

※ Microsoft Access 2007 形式(拡張子が accdb) のファイルには対応しておりません。
Microsoft Access 2007 アプリケーション上で、Microsoft Access 2000 形式、2002-2003 形式のファイルを動作させることが可能です。
※ Microsoft Access 2000 ランタイム版の場合にはサンプルデータベースファイルは他のパソコンと共有してご使用できません。

③添付の VTL 顧客管理データベースファイル:

顧客管理データベースファイル（MDE）:

ViewTalk Light インストール時にインストールされます。(4.2 ViewTalk Light のインストールを参照してください。)

Microsoft Access 2000 用:	VTL52SMP2K.mde
Microsoft Access 2002、2003 用:	VTL52SMPXP.mde
Microsoft Access 2007 用:	VTL52SMP07.mde

④推奨 CPU:

Microsoft Windows 2000/XP

:Pentium Ⅱまたは Celeron 300MHz 以上

Microsoft Windows Vista

:1GHz 以上

⑤推奨メモリ:

Microsoft Windows 2000/XP

:128MB 以上

Microsoft Windows Vista

:1GB 以上

⑥ハードディスク:

50MB 以上の空き領域が必要

⑦オーディオデバイス:

通話録音用ユニット(ADA-L)を使用した通話録音再生を行う場合に必要になります。

Microsoft Windows Vistaでユーザーアカウント制御(UAC)を無効化するには

Microsoft Windows Vista でユーザーアカウント制御(UAC)を無効化するには、次の通りに設定してください。再起動が必要になりますので、他のアプリケーションを閉じてから設定を行ってください。

1. 「スタート」->「コントロールパネル」で「クラシック表示」を選択します。(すでにクラシック表示になっている場合は不要です。)
2. 「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」->「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」を開き、「ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外してください。
3. 「これらの変更を適用するにはコンピュータを再起動する必要があります。」というメッセージが表示されますので「今すぐ再起動する」を選択して再起動してください。

ユーザーアカウント制御(UAC)を無効化すると、ユーザーに許可されていない変更がコンピュータに加えられようとしたときに警告を表示しません。悪意あるソフトウェアやスパイウェアがコンピュータにインストールされる危険性を最小限に抑えるには、ウイルス対策ソフトウェアを常に最新の状態で実行しておく必要があります。

4　ViewTalk Lightのインストール

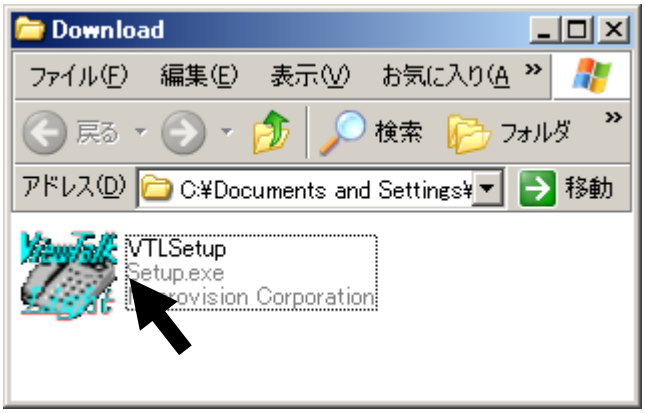
4.1　セットアップ時のご注意

セットアップを実行する前に、Microsoft Access をインストールしてください。
製品版の Microsoft Access をお持ちでない場合は、ViewTalk Light のダウンロードページにサンプルデータベースを簡単に使うための Microsoft Access 2000 ランタイム版が用意されています。
Microsoft Access 2000 ランタイム版とは、パソコンに Microsoft Access がインストールされていなくても顧客情報管理用のサンプルデータベースの読み書きを可能にするプログラムです。
ランタイム版の場合、画面の編集などの Microsoft Access 設計はできません。また、一部機能が制限されることがあります。

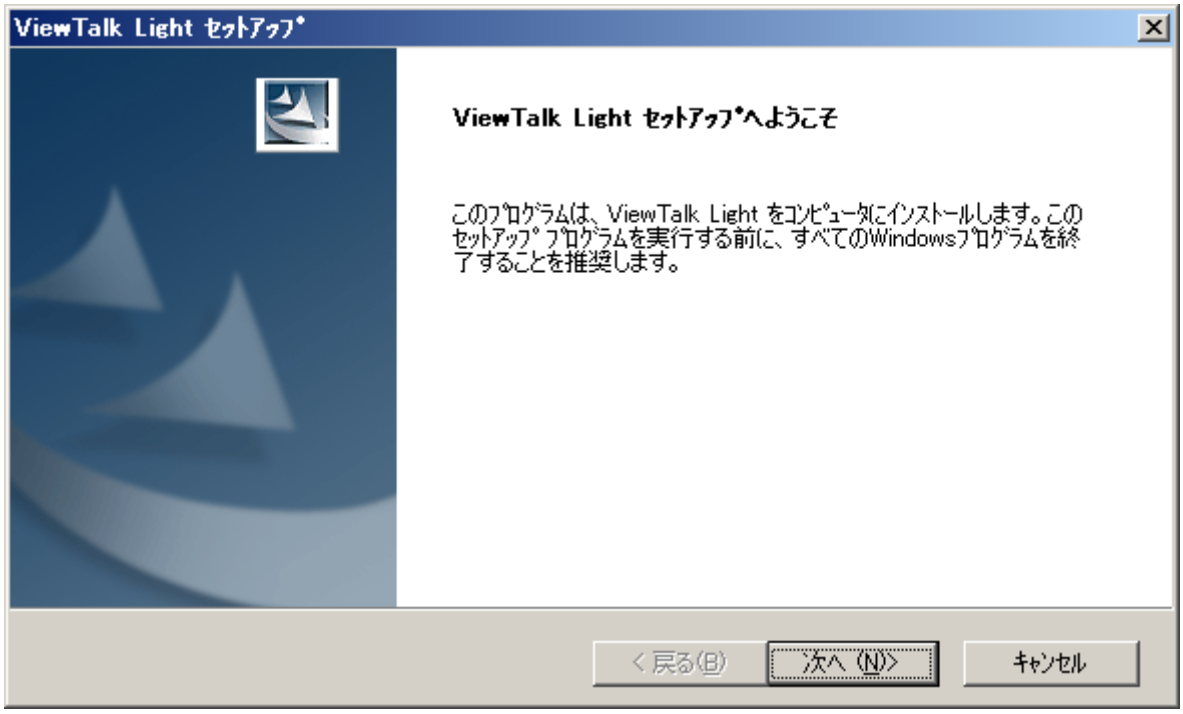
また以前使用していた ViewTalk Light をアンインストールした後に、再度 ViewTalk Light をインストールした場合、環境設定内容が初期値で登録されずに、以前使用していた環境設定内容がそのまま設定される場合があります。ご使用になる前には、必ず環境設定の内容を確認してください。

4.2　ViewTalk Lightのインストール

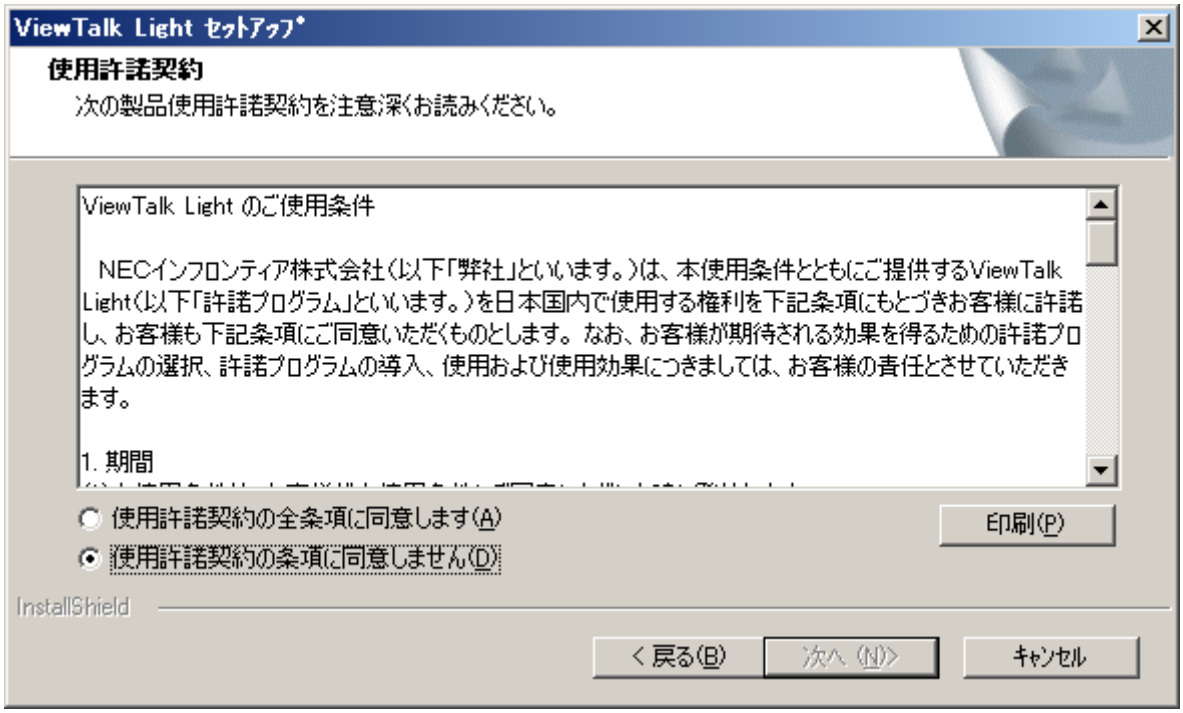
①ダウンロードした VTLSetup.exe を起動します。



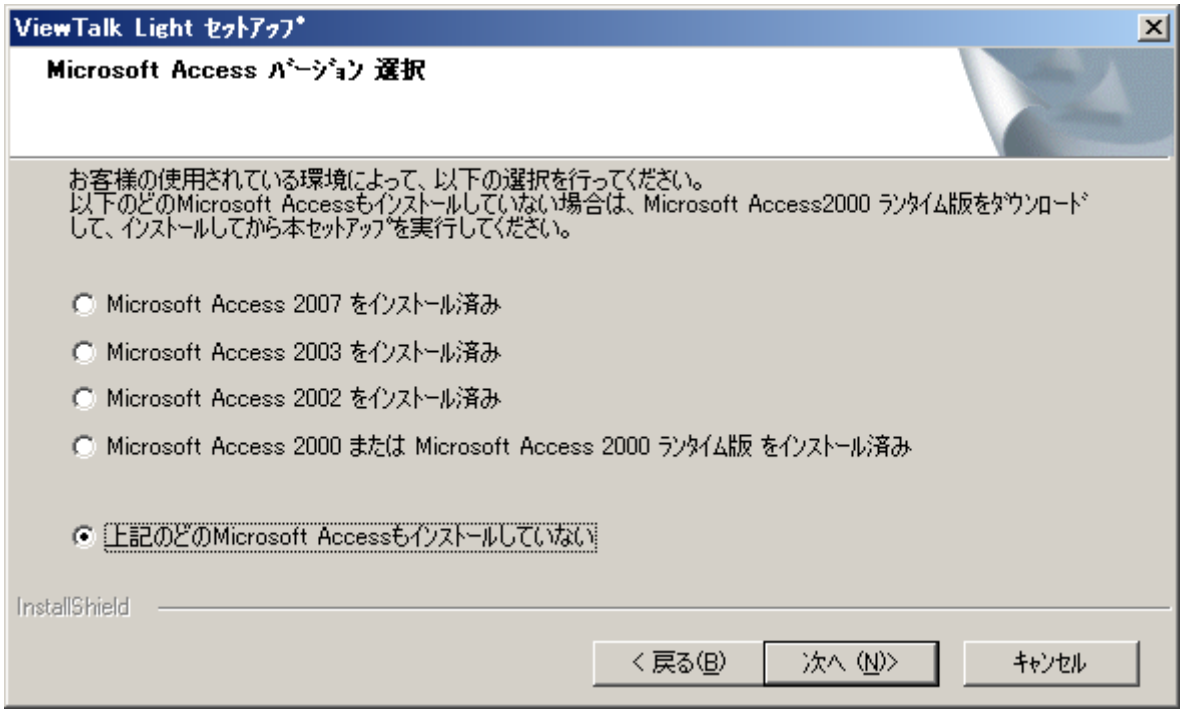
②ViewTalk Light のインストールが始まりますので、「次へ」をクリックしてください。



②ViewTalk Light のご使用条件をよく読み、同意する場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」をクリックしてください。



③下図のように、Microsoft Access がインストールされているかを聞いてきますので、お客様の環境により選択してください。

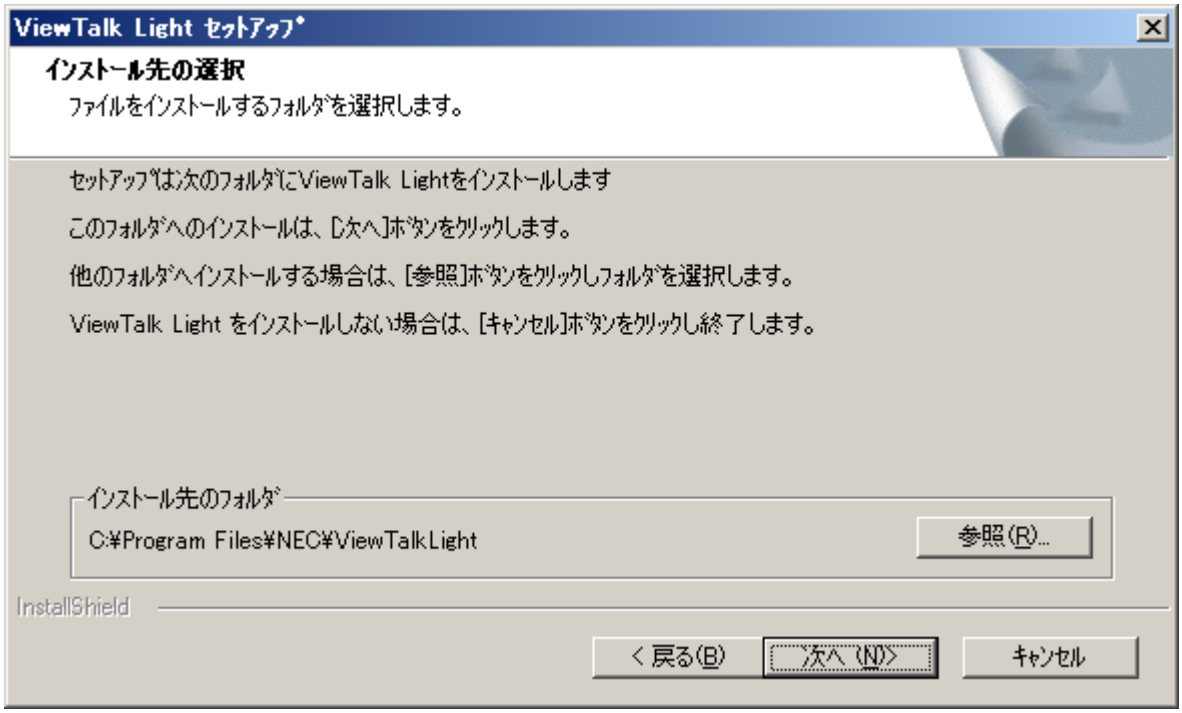


④ViewTalk Light 本体のインストール先フォルダを決定する「インストール先の選択」ダイアログボックスが表示されます。

インストール先フォルダを変更しない場合は、そのまま「次へ」をクリックしてください。

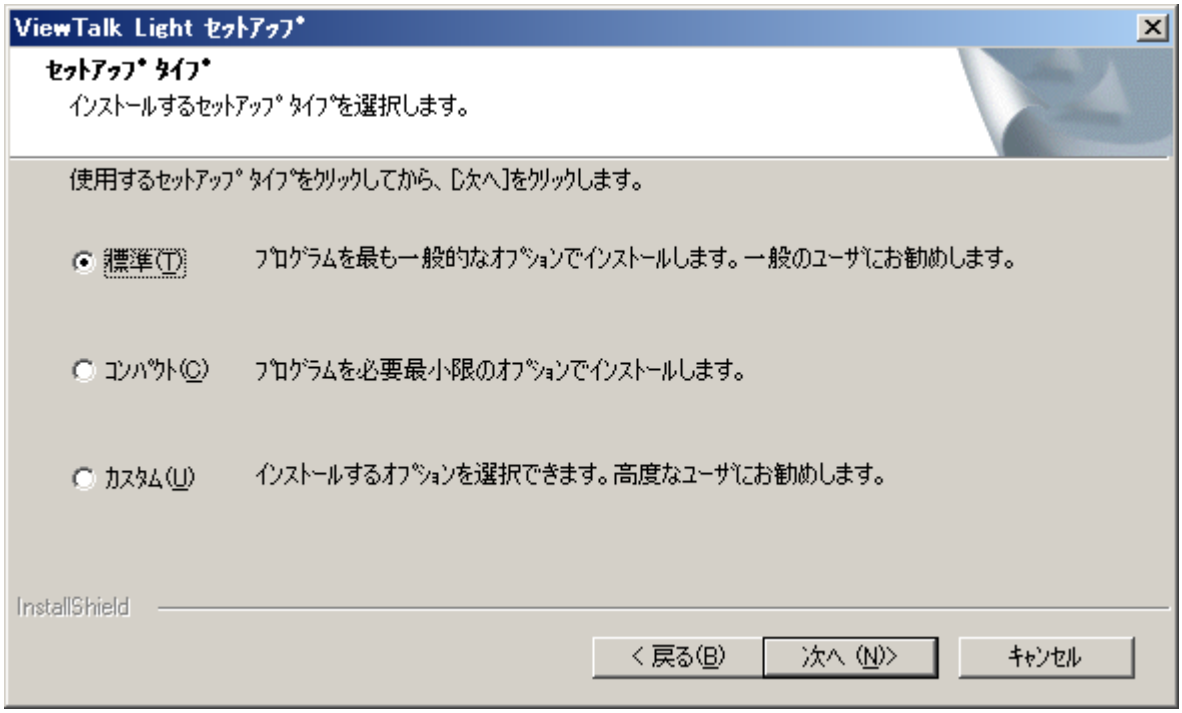
インストール先フォルダを変更する場合は、「参照」をクリックし、「ディレクトリの選択」ダイアログボックスでインストール先のフォルダを指定し、「OK」をクリックします。

「インストール先の選択」ダイアログボックスに戻ったら「次へ」をクリックしてください。



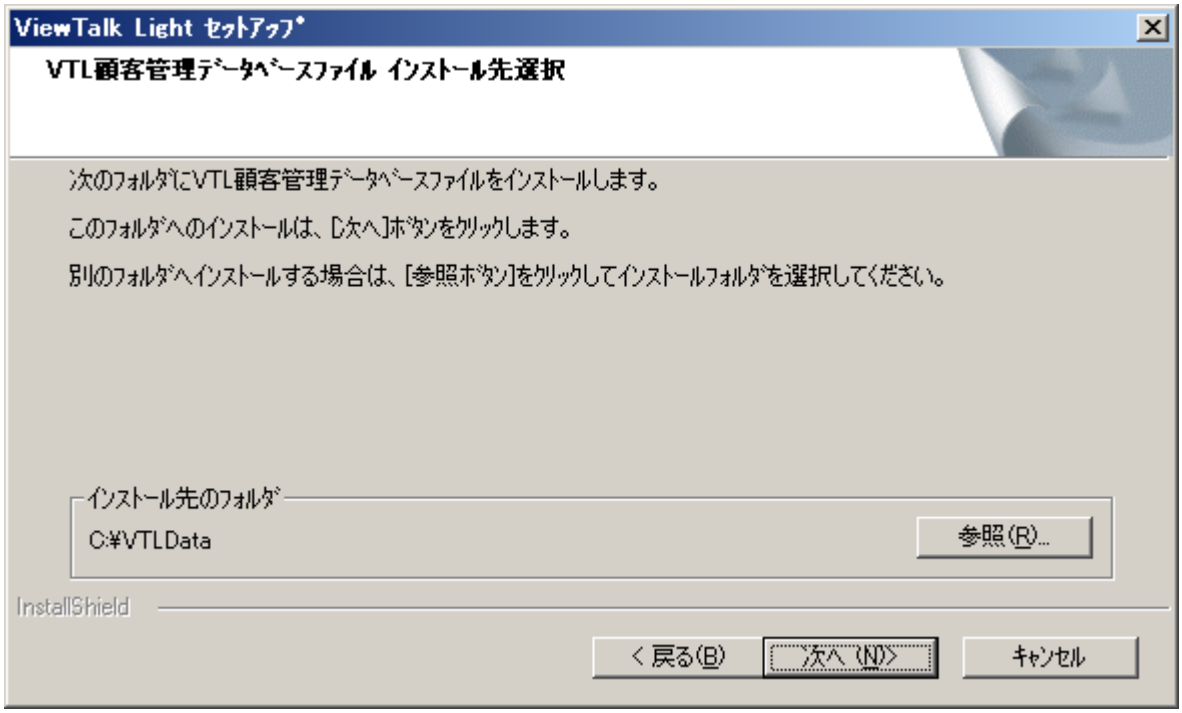
⑤「セットアップタイプ」ダイアログボックスが表示されます。

VTL 顧客管理データベースファイルをインストールする場合はここで「標準」を、インストールしない場合は「コンパクト」を選択して「次へ」をクリックしてください。

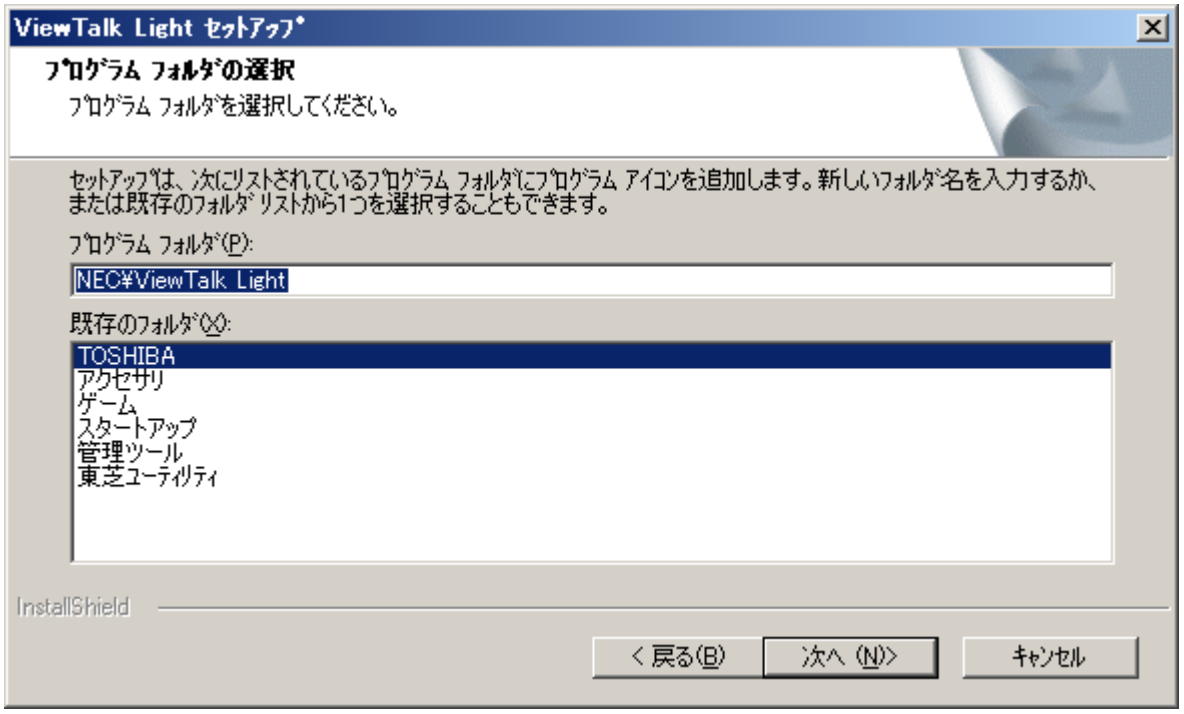


⑥「セットアップタイプ」ダイアログボックスで「標準」を選択した場合、VTL 顧客管理データベースファイルのインストール先を決定する「VTL 顧客管理データベースファイル インストール先選択」ダイアログボックスが表示されます。

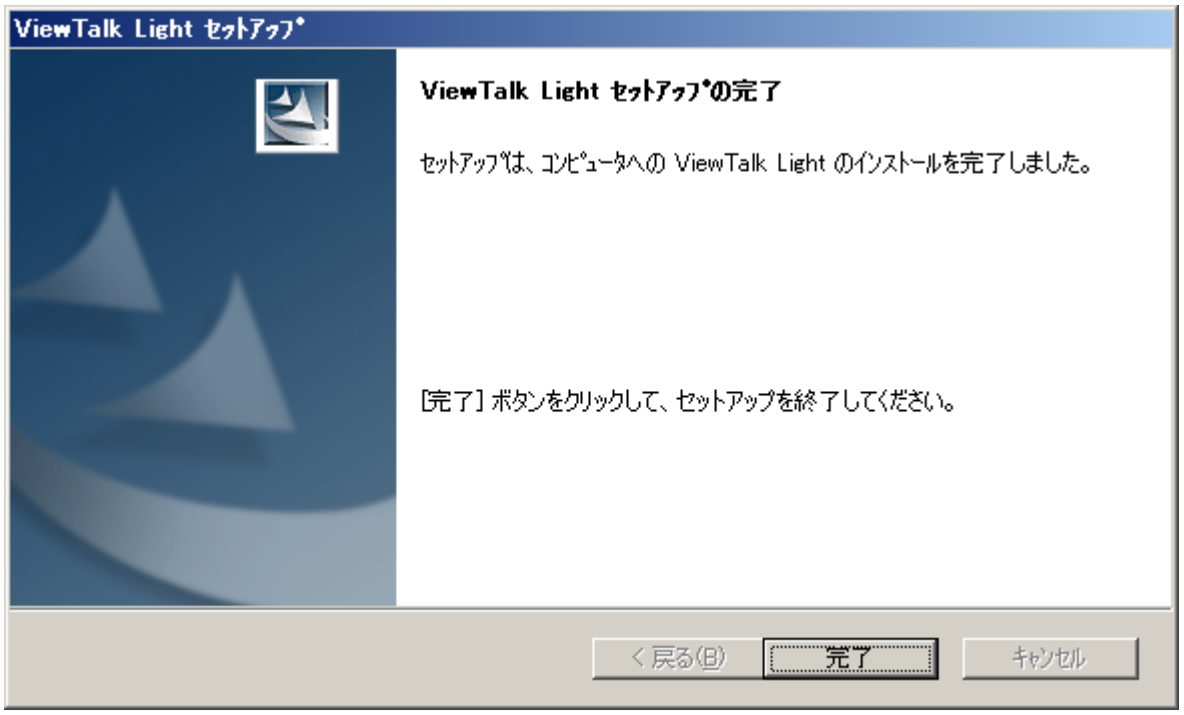
任意、又は標準のフォルダを指定して「次へ」をクリックしてください。



⑦最後にスタートメニューに追加するプログラムフォルダ名を指定し「次へ」をクリックすると、プログラムのコピーが始まります。



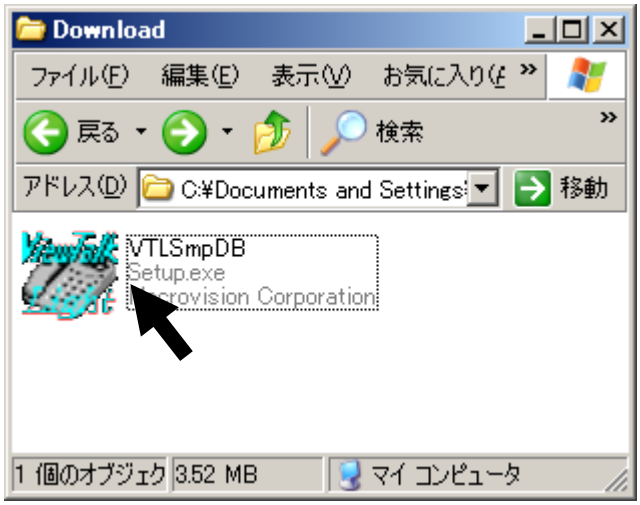
⑧コピーが終了すると、インストールは終了です。「完了」をクリックしてください。



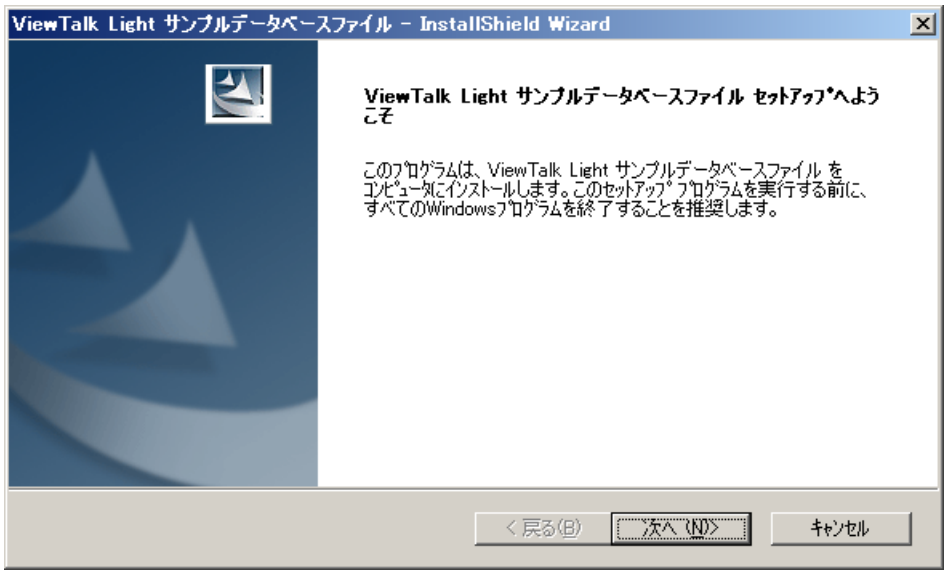
4.3　Microsoft Accessサンプルデータベースファイルのインストール

VTL 顧客管理データベースファイルをカスタマイズ可能にした MDB 形式のサンプルデータベースファイルが用意されています。

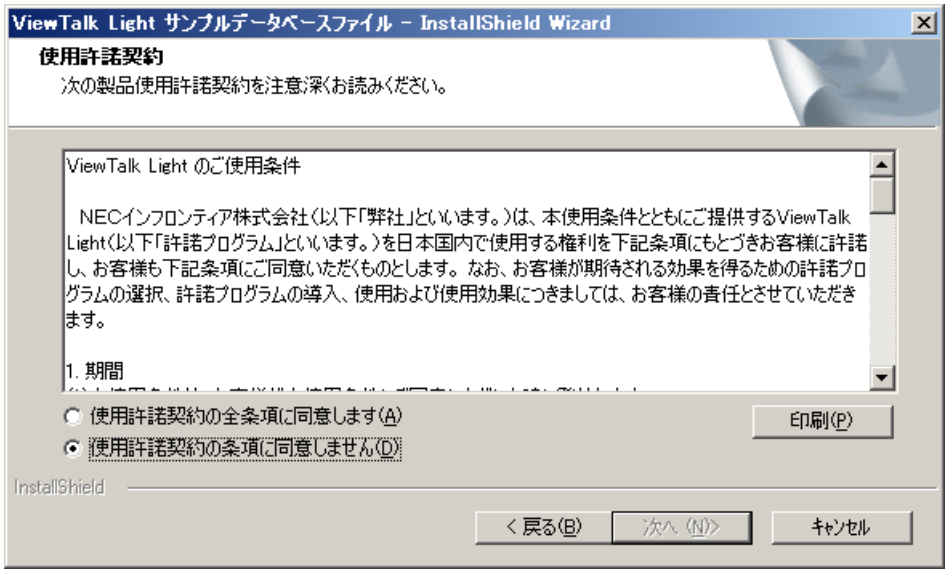
①MDB 形式のサンプルデータベースファイルをインストールするには、 VTLSmpDB.exe をダウンロードして実行します。



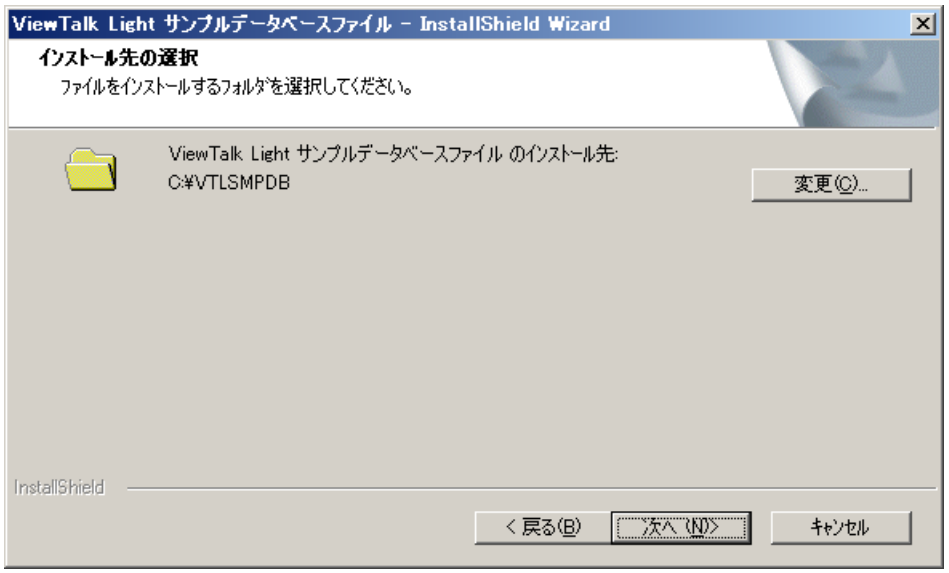
②VTLSmpDB.exe を実行すると「ViewTalk Light サンプルデータベースファイル セットアップへようこそ」の画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。


ViewTalk Light サンプルデータベースファイル - InstallShield Wizard
ViewTalk Light サンプルデータベースファイル セットアップへようこそ
このプログラムは、ViewTalk Light サンプルデータベースファイル をコンピュータにインストールします。このセットアップ プログラムを実行する前に、すべてのWindowsプログラムを終了することを推奨します。
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル

③「ViewTalk Light のご使用条件画面」が表示されますので、内容をよくお読みなり、内容に同意する場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。



④サンプルデータベースファイルをインストールするフォルダを選択します。変更する場合は、「変更」をクリックし、インストールするフォルダを選択します。



⑤「ViewTalk Light サンプルデータベースの選択画面」が表示されますので、お使いの Microsoft Access のバージョンに合わせて必要なファイルをインストールしてください。

MS Access 2000 用サンプルデータベースファイル:

Microsoft Access 2000 で使用することができます。

インストールされるファイル名:VTL52SMP2K.MDB

MS Access 2002～用サンプルデータベースファイル:

Microsoft Access 2002、Microsoft Access 2003、Microsoft Access 2007 で使用することができます。

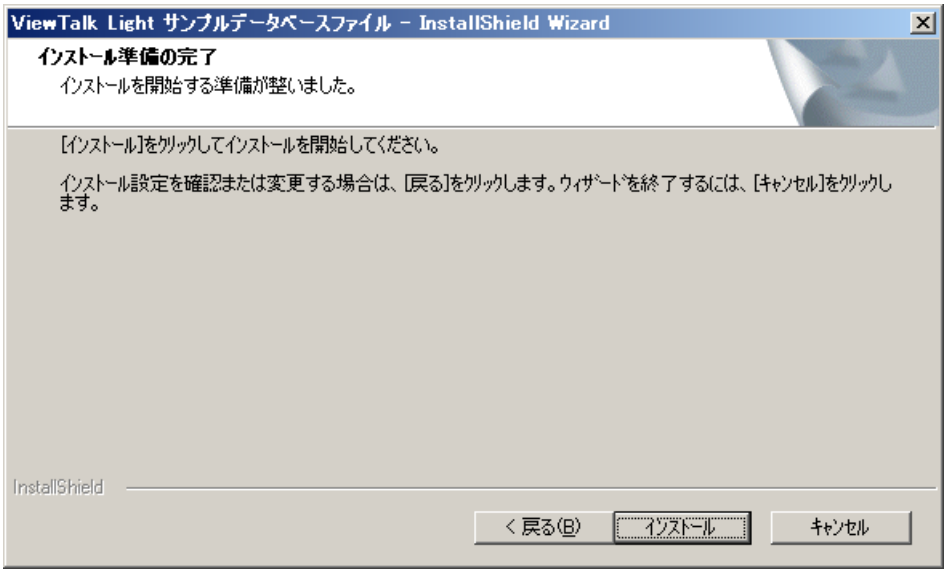
インストールされるファイル名:VTL52SMPXP.MDB

※ MDB ファイルをコンパイルして作成した MDE ファイルを使用する場合の注意事項:

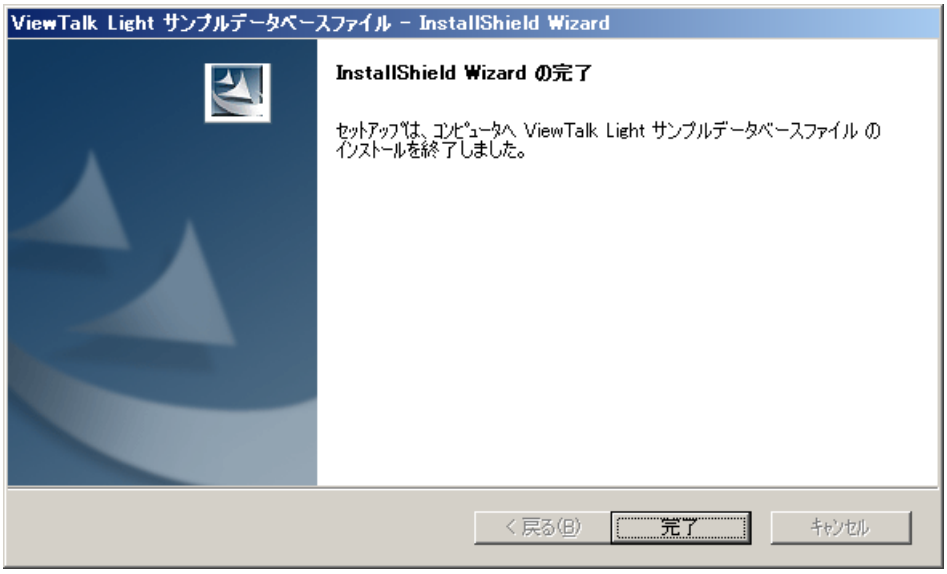
Microsoft Access 2002、2003 でコンパイルして作成した MDE ファイルを Microsoft Access 2007 で使用した場合に正しく動作しないことがあります。

Microsoft Access 2007 で MDE ファイルを使用する場合は、Microsoft Access 2007 で MDB ファイルをコンパイルする必要があります。

⑥「インストール」をクリックして、インストールを開始してください。



⑦「完了」をクリックしてインストールを完了してください。



※上記手順にてインストールしたサンプルデータベースファイルは Windows のスタートメニューに登録されません。

インストールしたサンプルデータベースファイルを Microsoft Access で開くと、ViewTalk Light が立ち上がります。

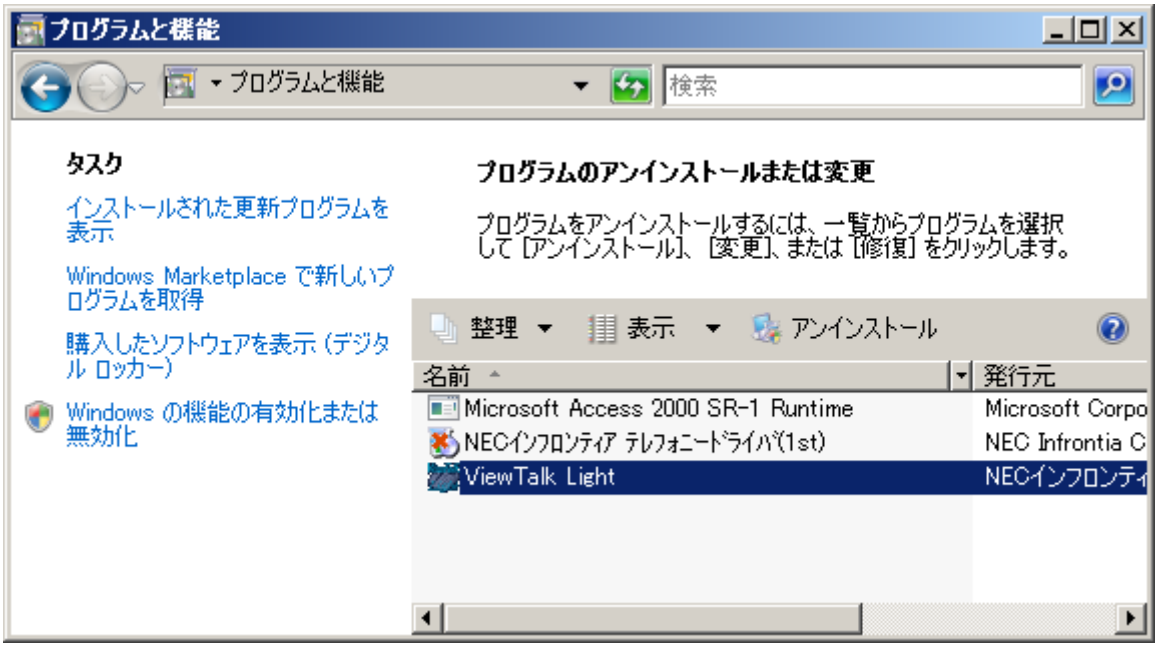
※サンプルデータベースファイルは「プログラムの追加と削除」からアンインストールできません。手動でファイルを削除してください。

4.4 ViewTalk Lightのアンインストール

ViewTalk Light をアンインストールするときには、Microsoft Windows の「コントロールパネル」から「プログラムと機能」を開き、「ViewTalk Light」を選択し「アンインストール」を実行してください。

※Windows XP をご使用の場合は、「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除」を開き、アンインストールします。
※Windows 2000 をご使用の場合は、「コントロールパネル」から「アプリケーションの追加と削除」を開き、アンインストールします。

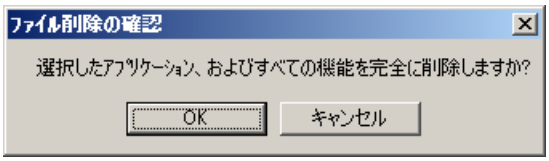
アンインストールした後に、再度 ViewTalk Light をインストールした場合には、以前使用していた環境設定内容がそのまま設定される場合がありますので、ご使用になる前に必ず、環境設定内容を確認してください。



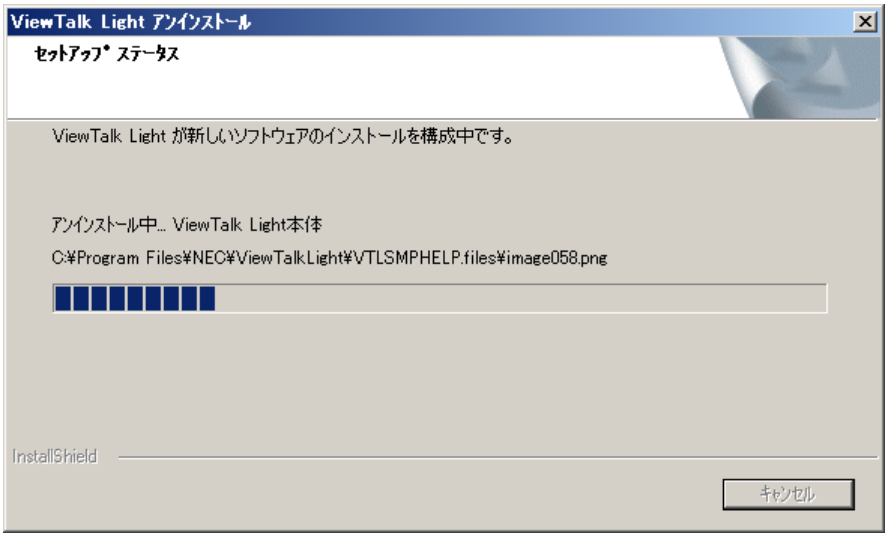
Microsoft Access 2000 ランタイム版を使用されていた場合は Microsoft Access 2000 ランタイム版のアンインストールが必要となります。

4.4.1 ViewTalk Lightのアンインストール

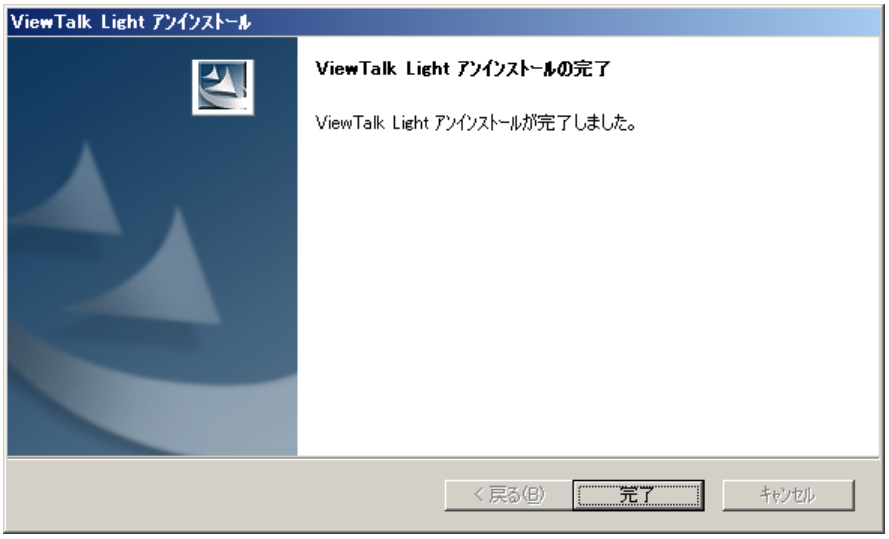
①「コントロールパネル」の「プログラムと機能」で「ViewTalk Light」を選択し「アンインストール」をクリックすると、以下のような確認のメッセージが表示されます。



②ここで、「OK」を選択すると ViewTalk Light のアンインストールが開始され、ViewTalk Light に関するファイル及びフォルダが削除されます。



③以下の画面が表示されますので、「完了」をクリックします。



以上でアンインストールは完了です。

5　ご使用方法

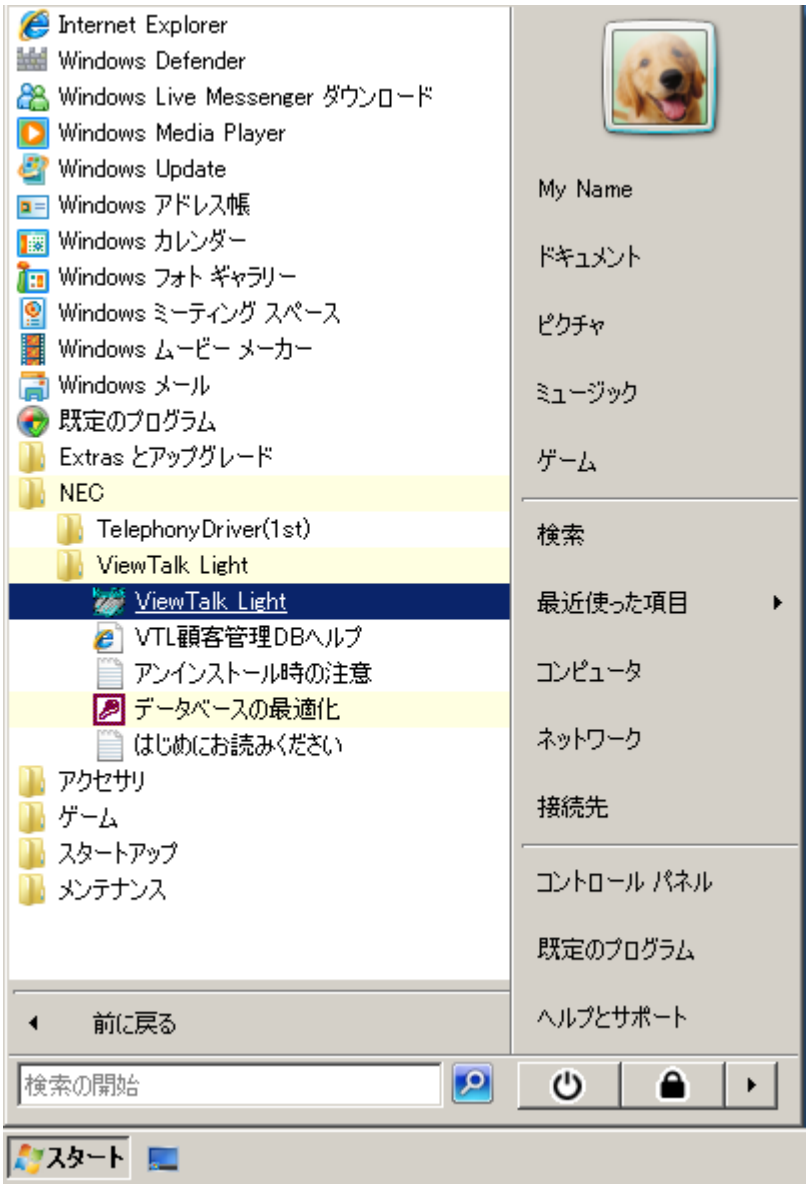
5.1　ViewTalk Lightの起動及び終了方法

5.1.1 起動

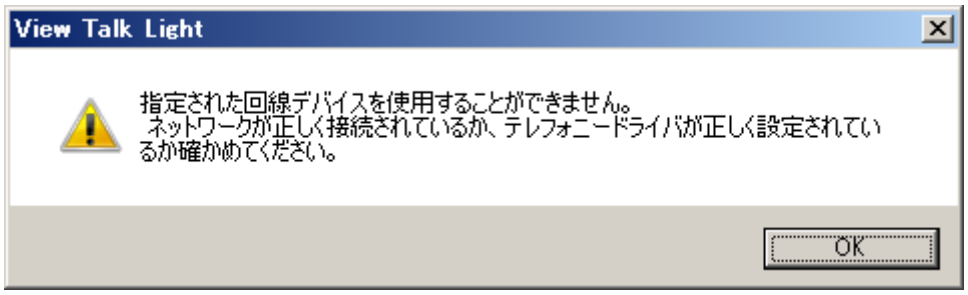
「スタート」をクリックし、一覧の中から「プログラム」メニューを選択すると、プログラムの一覧が表示されます。その中の「NEC」の中の「ViewTalk Light」の中にある「ViewTalk Light」をクリックしてください。

ViewTalk Light が VTL 顧客管理データベースファイルと共に起動します。

※ 4.3 項でインストールしたサンプルデータベースファイルを使用する場合は、エクスプローラからダブルクリックをしてサンプルデータベースファイルを起動してください。



インストール後、初めて ViewTalk Light を起動すると以下のダイアログボックスが表示されます。「OK」をクリック後、ViewTalk Light の[環境設定] -> [回線]タグで、回線デバイスの指定を行ってください。回線デバイスの設定については、「5.2.6 回線」を参照してください。

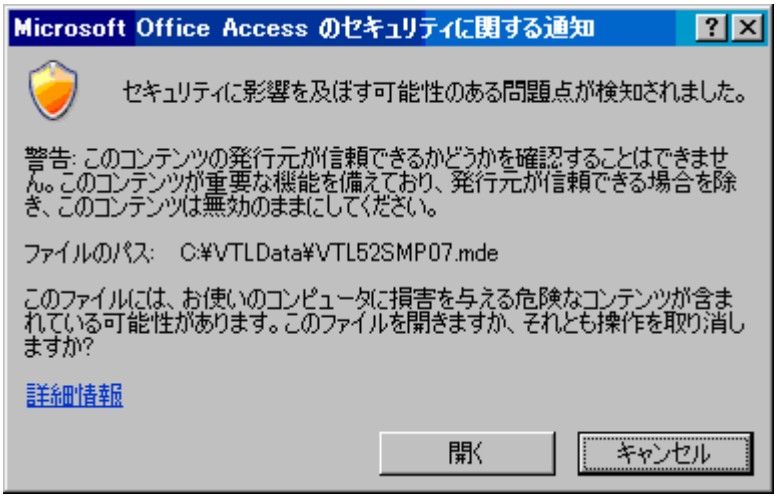


Microsoft Office Access 2003 をインストールした環境で、サンプルアプリケーションを起動すると以下のダイアログボックスが表示されることがあります。

ViewTalk Light サンプルアプリケーションではマクロを使用しているため、マクロのセキュリティが「中」に設定されていると下記のメッセージが必ず表示されます。サンプルアプリケーションで記述しているマクロに問題はありませんので、「開く」をクリックしてサンプルアプリケーションを起動してください。マクロのセキュリティがが「中」に設定されていると、起動時に毎回表示されます。
このメッセージの表示を行わないようにするためには、Microsoft Office Access 2003 を起動し、「ツール」->「マクロ」->「セキュリティ」を開き、セキュリティを「低」に設定してください。ただし、マクロのセキュリティ レベルを「低」に設定すると、Microsoft Office Access はマクロに関する警告を表示しません。コンピュータがマクロ ウイルスに感染する危険性を最小限に抑えるには、ウイルス対策ソフトウェアを常に最新の状態で実行しておく必要があります。

セキュリティ レベルが「高」に設定されている場合は、下記のダイアログボックスが表示されファイルを開くことができません。

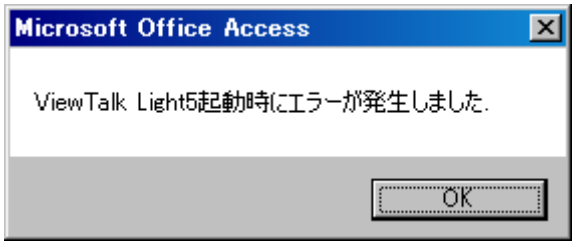
Microsoft Office Access 2007 をインストールした環境で、サンプルアプリケーションを起動すると以下のダイアログボックスが表示されることがあります。



ViewTalk Light サンプルアプリケーションではマクロを使用しているため、マクロのセキュリティが「警告表示して全てのマクロを無効にする」に設定されていると上記のメッセージが表示されます。サンプルアプリケーションで記述しているマクロに問題はありませんので、「開く」をクリックしてサンプルアプリケーションを起動してください。マクロのセキュリティが「警告表示して全てのマクロを無効にする」に設定されていると、起動時に毎回表示されます。

このメッセージの表示を行わないようにするためには、Microsoft Office Access 2007 を起動し、「Office ボタン」->「Access のオプション」->「セキュリティ センター」->「セキュリティ センターの設定」->「マクロの設定」を開き、マクロの設定を「すべてのマクロを有効にする」に設定してください。ただし、マクロの設定を「すべてのマクロを有効にする」に設定すると、Microsoft Office Access はマクロに関する警告を表示しません。コンピュータがマクロ ウイルスに感染する危険性を最小限に抑えるには、ウイルス対策ソフトウェアを常に最新の状態で実行しておく必要があります。

Windows Vista でご使用の場合、ユーザーアカウント制御(UAC)が有効になっていると、以下の画面が表示され、ViewTalk Light を起動することができません。
ViewTalk Light をご使用になる場合は、必ずユーザーアカウント制御(UAC)を無効化して使用してください。



※ViewTalk Light Ver6 の場合でも上記のエラーが表示されます。

ユーザーアカウント制御(UAC)を無効化するには、「コントロールパネル」->「ユーザーアカウント」->「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」を開き、「ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外してください。ただし、ユーザーアカウント制御(UAC)を無効化すると、ユーザーに許可されていない変更がコンピュータに加えられようとしたときに警告を表示しません。悪意あるソフトウェアやスパイウェアがコンピュータにインストールされる危険性を最小限に抑えるには、ウイルス対策ソフトウェアを常に最新の状態で実行しておく必要があります。

5.1.2 終了

VTL 顧客管理データベースファイルを終了してください。VTL 顧客管理データベースファイルと一緒に ViewTalk Light も終了します。ViewTalk Light 単体での終了はできません。

VTL 顧客管理データベースファイルを終了させるには、VTL 顧客管理データベースファイルの画面右上の「×」をクリックして終了させる方法と、「ファイル」→「終了」を選択して終了させる方法の 2 通りがあります。

5.2　環境設定

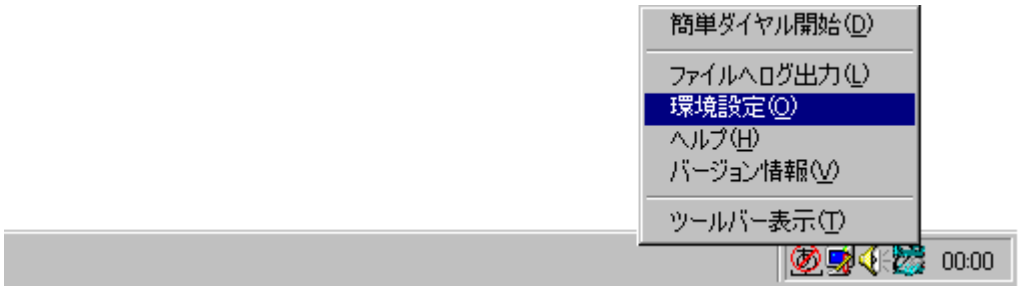
5.2.1 環境設定の呼び出し

最初に、ViewTalk Light をお使いになるための環境設定を行います。

ツールバーの表示エリア以外のところでマウスの右ボタンをクリックすると ViewTalk Light のメニューが表示されますので、「環境設定」を選び、クリックしてください。

ツールバーはタスクトレイに格納する事ができます。(5.2.8 ツールバーの格納方法)

ツールバーがタスクトレイに格納されている状態では、タスクトレイアイコン上で右ボタンをクリックし「環境設定」を選び、クリックしてください。



5.2.2 データベースの設定

以下は標準的に選択される VTL 顧客管理データベースファイルの例を用いて説明します。

データベースファイル名には、起動した VTL 顧客管理データベースファイル名が表示されます。

データベースの中で、電話番号を検索するテーブル／クエリー名を「電話番号検索テーブル」欄に指定します。

同じように、検索テーブルの中で、電話番号を検索するフィールド名を「電話番号検索フィールド」欄に、ViewTalk Light のツールバーの電話番号表示エリアに表示させるフィールド名を「表示電話番号フィールド」欄に、そして、次項のポップアップさせるフォームとリンクさせる顧客情報 ID を「顧客情報 ID フィールド」欄に指定します。

「電話番号 ID フィールド」欄は連続発信時に発信する電話番号の優先順位を指定するために使用します。

5.2.3 ポップアップ

着信時や発信時に、電話番号から検索した顧客情報等をツールバーに表示させるための指定を行います。

「顧客情報テーブル」欄には、ツールバー表示で使用するテーブルを指定するため、顧客情報の登録されているテーブルを指定します。

次に、ツールバーの相手先表示エリアに表示するフィールドを指定します。

「相手先名」欄に顧客情報テーブルの氏名フィールドを指定します。

さらにツールバーの任意データの表示エリアに、追加表示させたいフィールドがある場合は、「追加項目」欄にそのフィールドを指定します。

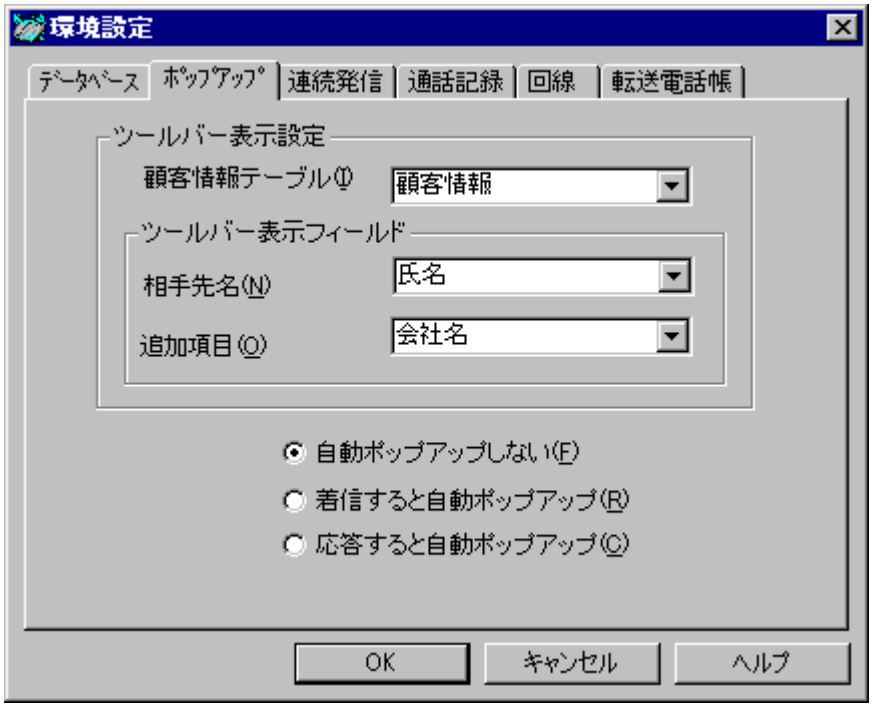
ツールバーの任意データ表示エリアのタイトルは、ここで選択したフィールドのタイトルが表示されます。

次に、顧客情報フォームのポップアップ設定を行います。

「自動ポップアップしない」を選択すると、ツールバーの「表示」をクリックした時に対応する顧客情報フォームをポップアップします。

「着信すると自動ポップアップ」を選択すると、着信時に、対応する顧客情報フォームを自動的にポップアップします。また、「表示」をクリックしてもポップアップします。

「応答すると自動ポップアップ」を選択すると、着信に応答した時に、対応する顧客情報フォームを自動的にポップアップします。また、「表示」をクリックしてもポップアップします。



※対応するデータが無い場合には検索フォームがポップアップします。

5.2.4 連続発信

データベース上の顧客リストを用いて、連続的に発信処理を行い、顧客との応対を記録するためのテーブルの指定およびその応対記録を書き込むフィールドの指定を行います。

また、その応対記録に書き込む内容が予め決まっている場合には、その内容を予め登録しておくことができます。

「記入項目入力」欄に登録したい内容を入力し、「追加」をクリックしてください。

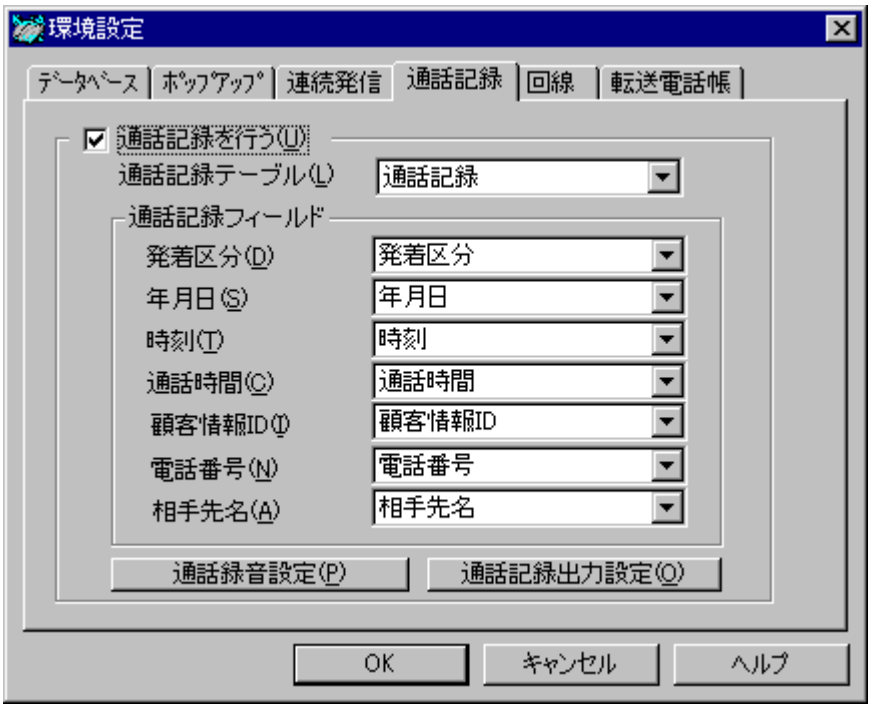
「応対記録フォーム連動」をチェックすると、連続発信開始時と連続発信ダイアログボックスの「次へ」クリック時に「応対記録フォーム」のポップアップ・表示更新を行います。また、連続発信終了時に、「応対記録フォーム」を閉じます。

※「記録項目一覧」欄は記入例です。

5.2.5 通話記録

データベース上に発着呼の通話記録を行う場合、「通話記録を行う」にチェックをします。

次に、通話記録を行うテーブル名を指定し、記録したい項目を、テーブル中の各々のフィールド名で指定します。

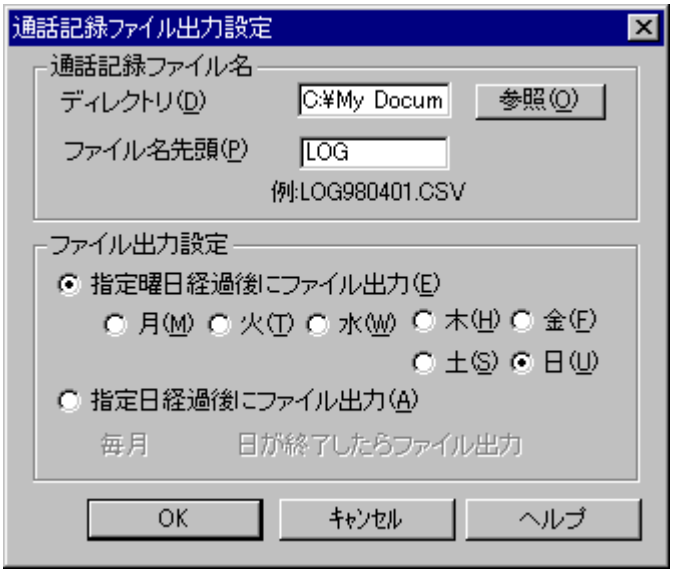


「通話記録出力設定」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

記録した通話記録を定期的にファイル出力させるための出力先ディレクトリ名と、そのファイル名を指定します。

ファイル名は先頭の文字を入力すると下の例のように、ファイル名の後半に年月日が自動的に付与されます。

またファイルを定期的に出力する条件を、指定曜日か、毎月の指定日経過後かを選択、指定します。



※ 通話記録の出力先フォルダは、新規に作成してください。ViewTalk Light のインストールで指定したディレクトリは指定しないでください。

※「通話記録を行う」にチェックをつけると、必ず通話記録ファイルが出力されます。出力先ディレクトリ名とファイル名の設定されていない場合は、C:¥に通話記録ファイルが出力されます。

「通話録音設定」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

音声ファイル名を記録する、通話記録テーブルのフィールド名を指定します。

音声ファイルの保存先ディレクトリ名を指定します。

通話開始と同時に録音を開始したい場合は、「自動通話録音を行う」にチェックします。

※ 音声ファイルの保存先ディレクトリは、新規に作成してください。ViewTalk Light のインストールで指定したディレクトリは指定しないでください。

「変更」をクリックすると、以下の画面が表示され、録音フォーマットの指定ができます。

形式と属性を選択し、「OK」をクリックすると反映され、「キャンセル」をクリックすると変更した値は無視されます。

5.2.6 回線

使用する回線に合わせて、回線デバイスを指定します。

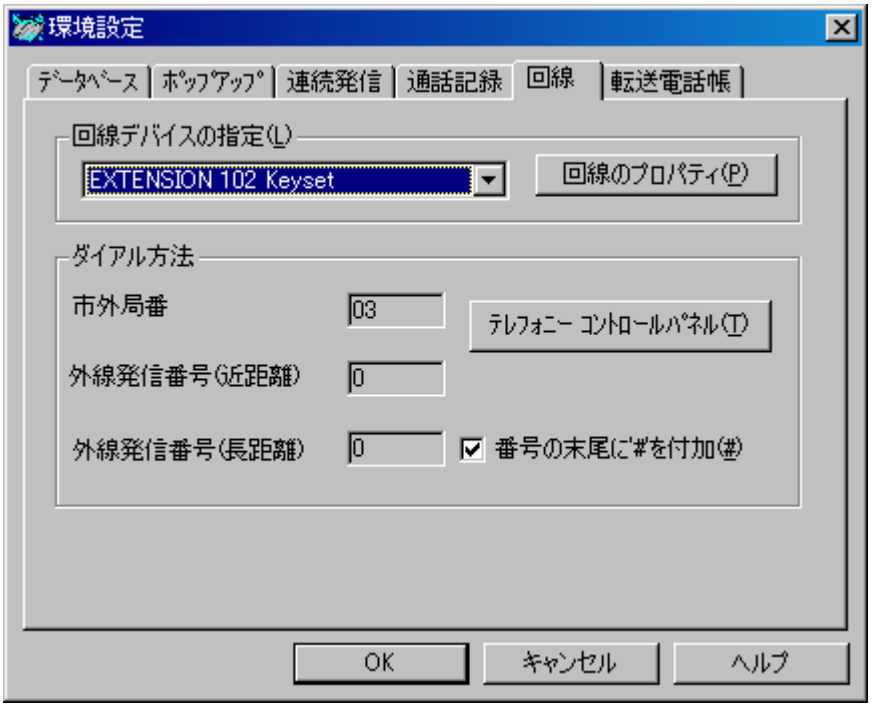
ここでは「EXTENSION △△△ Keyset」を選択します。

※ △△△には内線番号が表示されます。

ダイヤル方法の市外局番や外線発信番号は、Microsoft Windows のコントロールパネルの中にある「電話とモデムのオプション」で設定された値が表示されていますので、変更する場合には、「テレフォニーコントロールパネル」をクリックして開いたダイアログボックスで、設定してください。

また、主装置で ISDN 回線を使用して発信する場合、ダイヤルの末尾に#をつけると早く接続されますので、通常は「番号の末尾に '#' を付加(#)」にチェックを入れます。

ご使用の電話回線が通常のアナログ回線の場合は、チェックを入れないでください。

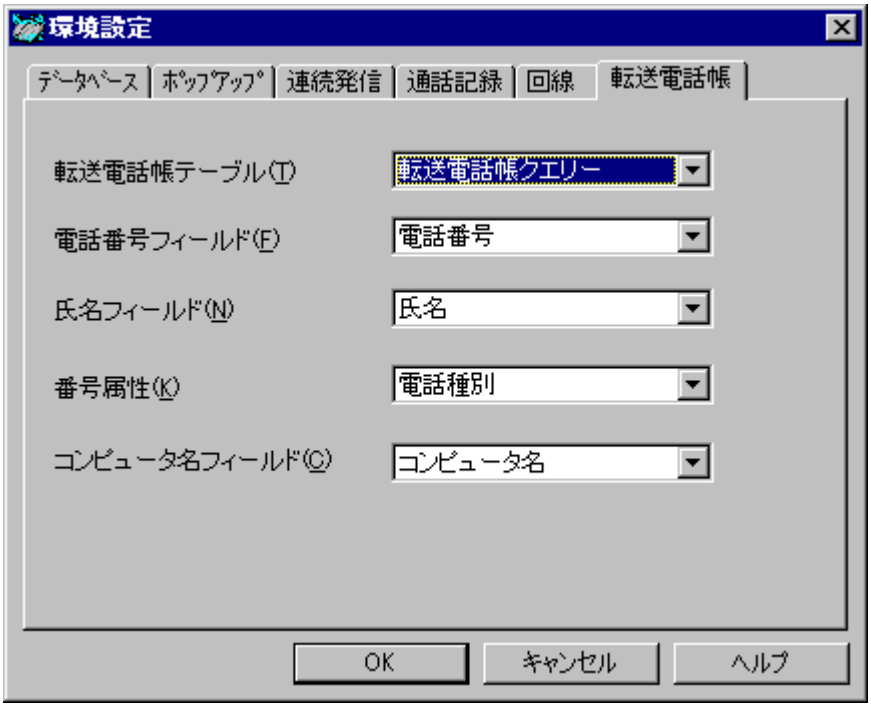


5.2.7 転送電話帳

LAN で接続された他のクライアントへの顧客情報フォーム転送、内線転送、外線転送及びボイスメールへ通話録音メッセージの投函を行うためのテーブル及び、その他のフィールドの指定を行います。

まず、転送電話帳テーブルを指定します。

次に、指定したテーブルの中で、転送先の電話番号が登録される電話番号フィールド、転送先の相手名が登録される氏名フィールド、内線電話番号・外線電話番号・ボイスメール番号を区別するために使用する番号属性、フォーム転送相手のコンピュータ名が登録されるコンピュータ名フィールドをそれぞれ指定します。



5.2.8 ツールバーの格納方法

① ツールバーをタスクトレイに格納

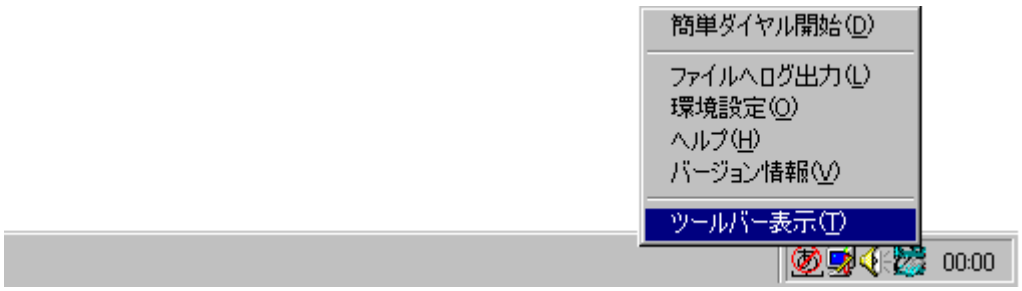
ViewTalk Light ツールバーは常に前面に表示されますが、タスクトレイに格納することもできます。

ツールバーを格納するにはツールバーの表示エリア以外のところでマウスの右ボタンをクリックします。ViewTalk Light のメニューが表示されますので、「タスクトレイに入れる」を選び、クリックしてください。

※一旦ツールバーをタスクトレイに格納すると、その設定は再起動しても失われません。

② ツールバーの表示

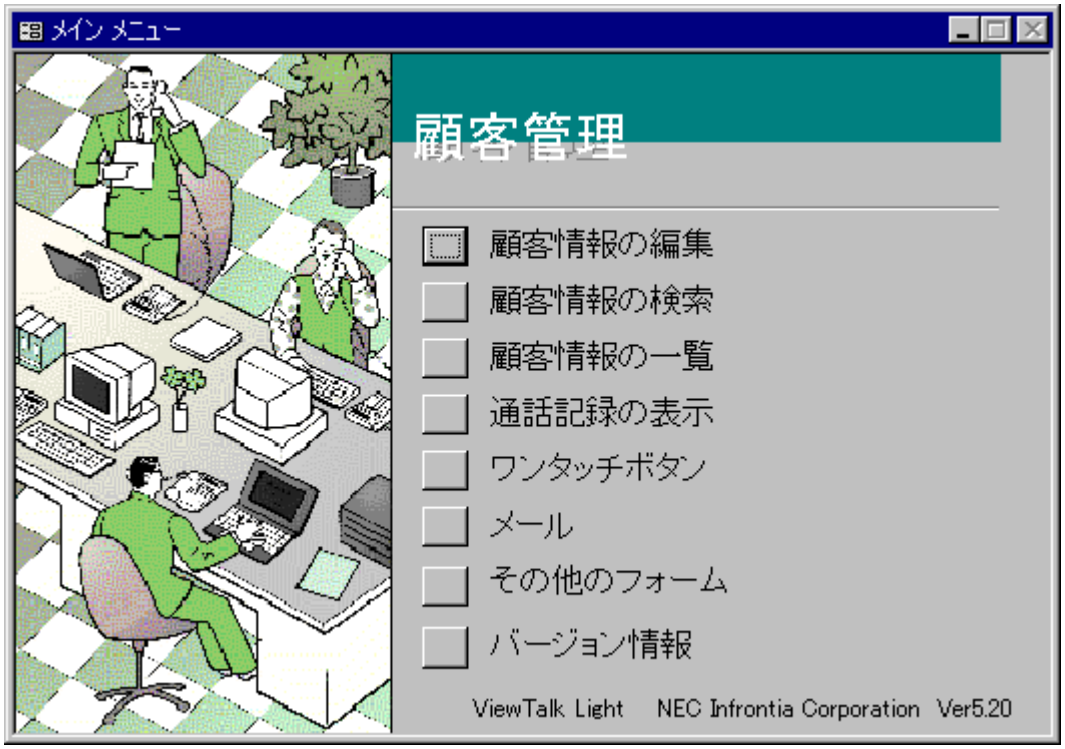
タスクトレイに格納されたツールバーを表示するには、ViewTalk Light のタスクトレイアイコン上でマウスの右ボタンをクリックします。ViewTalk Light のメニューが表示されますので、「ツールバー表示」を選び、クリックしてください。



※一旦ツールバーを表示すると、その設定は再起動しても失われません。

5.3 メインメニュー

メインメニューは次の内容で構成されます。



・ 顧客情報の編集

顧客情報を確認、追加、変更するときに使用します。

ここで開くフォームは通常、着信・発信時に電話番号が一致した場合にポップアップするフォームと同一のフォームです。

・ 顧客情報の検索

顧客の検索をするときに使用します。

このフォームを開き、検索するキーワード(氏名、電話番号、住所等)をマウスで選択して、キーワードの一部、もしくは全部を入力し検索します。

・ 顧客情報の一覧

登録されている顧客情報を一覧表で表示します。

連続発信時にこのフォームを開き、連続発信を行います。

・ 通話記録の表示

発着信通話に関する通話記録の一覧です。

このフォームから、通話記録の対象となる顧客への発信(コールバック)を行うことができます。

・ ワンタッチボタン

ワンタッチボタンで発信を行うときに使用します。

・ メール

メールの作成やメールサーバの設定を行うときに使用します。

・ その他のフォーム

社員情報や応対区分の編集、顧客情報を元にした電話帳、応対レポートを作成するときに使用します。

・ バージョン情報

VTL 顧客管理データベースファイルのバージョン情報が表示されます。

5.4 顧客情報の登録

添付している Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを用いて、顧客情報を登録する場合の登録例を説明します。

顧客管理のメインメニューから「顧客情報の編集」をクリックし、顧客情報フォームを開きます。ここで必要な顧客情報の新規追加、修正等を行います。

住所入力支援機能

日本語入力に、Microsoft IME97、ATOK11 以降を使用している場合、郵便番号辞書を設定することによって住所の入力支援機能を利用できます。

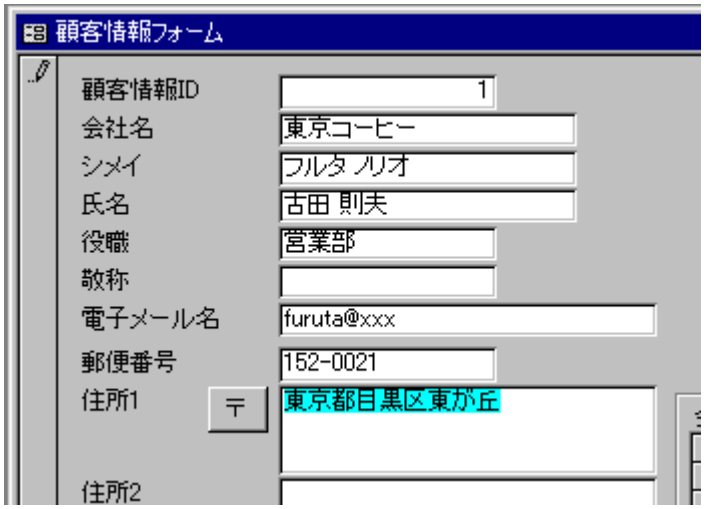
住所入力支援機能は、内部処理として、日本語入力システムに対し、スペースキーで辞書変換する動作を行います。

そのため、スペースキーで郵便番号変換できるように日本語入力システムを設定してください。

郵便番号辞書の設定方法は、使用する Microsoft IME または ATOK（日本語入力システム）の取扱説明書を参照してください。

郵便番号を入力し、住所入力欄の側にある「〒」をクリックすると、「住所 1」入力欄に対応した住所が自動的に入力されます。

一つの郵便番号が複数の地域を表す場合は、コンボボックスが表示されますのでそこから選択し、入力します。



※ ご使用の Microsoft Access のバージョンによっては、本機能が動作しない場合があります。

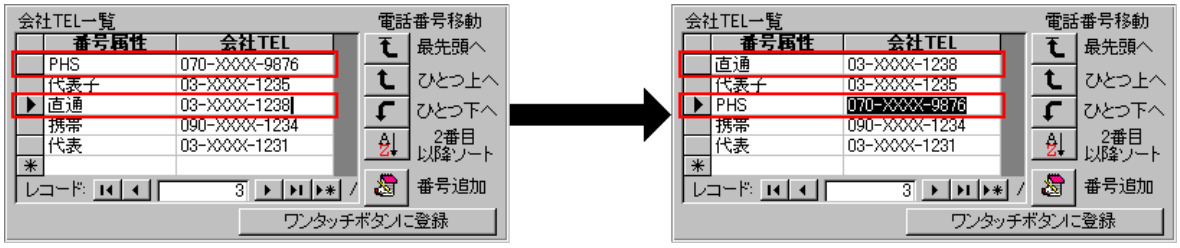
会社TEL並び替え機能

会社 TEL 並び替え機能は、顧客情報フォームの会社 TEL 一覧表の並び替えを行います。

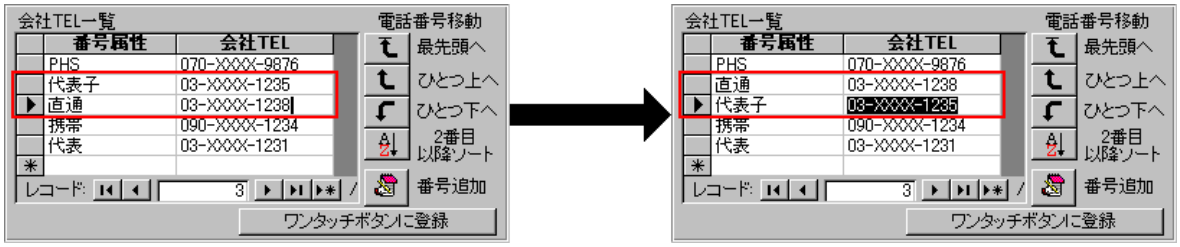
連続発信で発信する番号は、顧客情報フォームの会社 TEL 一覧リスト最上段の番号となっていますので、連続発信で発信したい番号を最先頭にしてください。

※ご使用の Microsoft Access のバージョンにより表示のされ方が異なります。

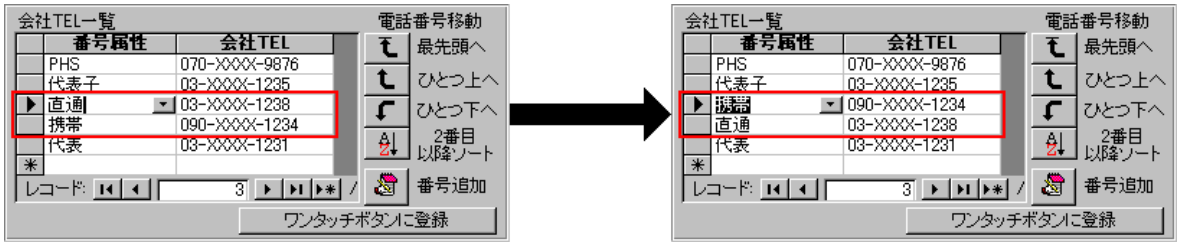
「最先頭へ」をクリックすると、カーソル位置のレコードと先頭のレコードを入れ替えます。



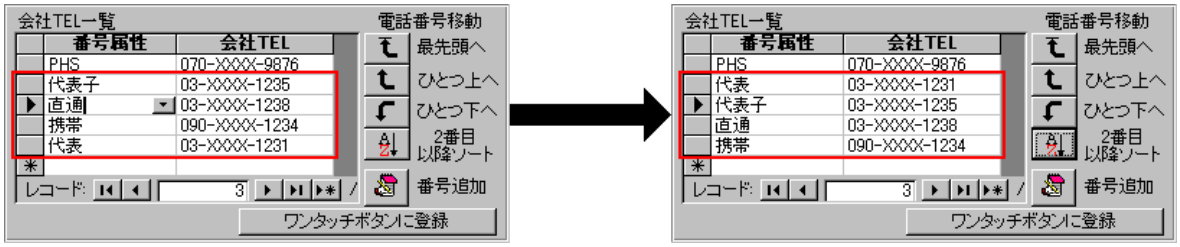
「ひとつ上へ」をクリックすると、カーソル位置のレコードとそのひとつ上のレコードを入れ替えます。



「ひとつ下へ」をクリックすると、カーソル位置のレコードとそのひとつ下のレコードを入れ替えます。



「2 番目以降ソート」をクリックすると、2 番目以降のレコードを電話番号で昇順に並び替えます。

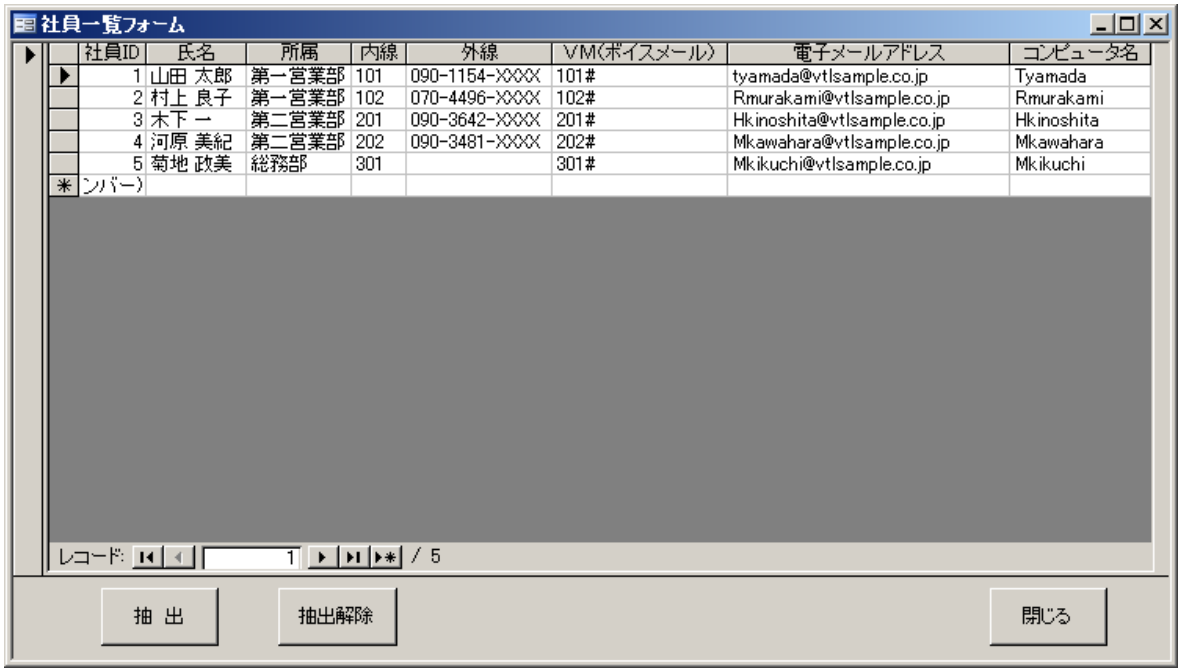


5.5　社員情報の登録

「顧客情報フォームの転送処理」及び、「通話録音メッセージの投函処理」に必要な社員情報の登録例を、添付している Microsoft Access の VTL 顧客管理データベースファイルを用いて説明します。

まず、顧客管理のメインメニューから「その他のフォーム」をクリックし、「社員情報一覧の編集」を選択して「社員一覧フォーム」を開きます。

ここで必要な社員情報の新規追加、修正等を行います。



※「VM(ボイスメール)」への登録内容は、Aspire または Aspire X システムをご使用の場合
ボイスメール番号の後に「＃」が必要です。
例「100#」

5.6 着信

5.6.1 着信時

◎ データベースに登録がない場合の着信

発信者番号が通知されるとツールバーの電話番号エリアに発信者番号が表示されます。

また、発信者番号の無い着信の場合にはツールバーには何も表示されません。

※「着信すると自動ポップアップ」設定にしてある場合は、着信した時点で検索フォームが開きます。

◎ データベースに顧客登録がある場合の着信

発信者番号が通知されると、その番号をもとにデータベース検索を行い、該当する顧客データをツールバーに表示します。

このときに「表示」をクリックすると、該当する顧客情報フォームが開きます。

※「着信すると自動ポップアップ」設定にしてある場合は、着信した時点で該当する顧客情報フォームが開きます。

5.6.2 応答

着信している電話に応答する場合には、電話機の受話器を上げるか、顧客情報フォームなどに付いている「応答」で応答してください。

複数着信している場合に、着信している任意のラインボタンを押して応答すると、電話機に表示されている電話番号に応答できない場合があります。

またツールバーや通話記録にも正しく表示ができない場合があります。

※「応答すると自動ポップアップ」設定にしてある場合は、「表示」をクリックしなくても、応答した時点で検索を行い、該当する顧客情報フォームが開きます。

5.6.3 検索方法

添付の VTL 顧客管理データベースファイルをご使用の場合、環境設定で電話番号の検索を「検索 TEL」に設定していますので、会社 TEL に登録した電話番号全てが発信者番号での検索対象となります。

また、会社 TEL に登録する電話番号は、ツールバーに電話番号を表示したときに見やすいように、‘(’ ‘)’(カッコ)や‘-’(ハイフン)を付けることが可能です。

会社 TEL データに付与されたカッコやハイフンなど数字以外の文字は、検索 TEL データには自動的に削除されて登録され、数字のみを検索します。

発信者番号が無い着信や、データベースに登録されていない顧客からの着信の場合に、ツールバーの「表示」をクリックすると、検索フォームが開きます。

ここで検索したい項目にカーソルを移し、検索したい文字を入力し、「検索」をクリックすると、データベースの検索を実行することができます。

また、検索した結果や「新規登録」で表示された顧客情報フォーム画面で、現在ツールバーに表示されている電話番号を追加登録や新規登録する場合には「番号追加」をクリックすると、会社 TEL に追加登録されます。

検索した結果、条件が一致するレコードが複数あった場合には、以下のように絞り込まれた状態で顧客情報フォームが表示されます。

画面左下の または をクリックすることで、レコード間を移動することができます。

番号候補検索を行いたい場合は「番号候補検索表示」をチェックします。

ツールバーに表示されている電話番号が「検索対象番号」テキストボックスに表示されます。

「候補検索」をクリックすると番号一覧に番号候補検索結果を表示します。

通話相手が候補一覧に表示された場合は、表示部分にカーソルを移動し、「フォームを開く」をクリックすると、該当する顧客情報フォームが表示されます。

候補一覧に該当しない場合は、「新規登録」をクリックして、新規に顧客情報を作成することができます。

5.7　発信

顧客情報フォームで「発信」をクリックすると、会社 TEL 一覧のカーソル位置の電話番号に発信します。

※ ViewTalk Light から発信する場合には、併設の電話機の受話器を置いた状態で発信操作を行い、その後、受話器を上げてください。

5.8　連続発信

顧客管理のメインメニューから「顧客情報の一覧」をクリックし、「一覧フォーム」を開きます。

絞り込みを行いたい条件がある場合には、「抽出」をクリックし、抽出条件を設定し、顧客データを絞り込むことができます。

抽出を解除する場合には、「抽出解除」をクリックすると、最初に開いた一覧フォームに戻ります。

「連続発信」をクリックすると、表示された顧客リストをもとに、一番上のデータから順次発信します。

連続発信で発信する番号は、顧客情報フォームの会社 TEL 一覧リスト最上段の番号となっていますので、他の番号に発信したい場合には、会社 TEL 一覧の順序を入れ替えてください。

一番目の発信が終了し、相手と通話中あるいは通話後に、必要に応じて応対記録を記録することもできます。

「次へ」をクリックすると、二番目の顧客情報が表示され、発信されます。以後順次同様の操作を行うことにより、顧客リストにリストアップされた全ての顧客に連続的に発信することができます。

また、次へ進まない場合、もしくは呼び出しを中止する場合等には、連続発信ダイアログの「切断」をクリックします。

通話中にその顧客の応対記録フォームを開きたい場合には、「フォームを開く」をクリックします。

処理が全て完了した場合や、途中で処理を終了したい場合には、「閉じる」をクリックすると連続発信の処理を終了します。

5.9　ワンタッチボタン

5.9.1「ワンタッチボタン」で発信

VTL 顧客管理データベースでは顧客を選んでから「発信」をクリックし発信するだけではなく、ワンタッチボタンフォームから、「ワンタッチボタン」をクリックするだけで、発信することもできます。

顧客管理のメインメニューから「ワンタッチボタン」をクリックし、ワンタッチボタンフォームを開きます。

ワンタッチボタンフォームには 50 個の「ワンタッチボタン」が表示されます。

「ワンタッチボタン」には登録している名前が表示されます。

※電話番号のみを登録し、名前を登録していない場合は電話番号が表示されます。

登録されている「ワンタッチボタン」をクリックすることにより、登録先に発信します。

※登録されていない「ワンタッチボタン」をクリックした場合、ワンタッチボタン一覧フォームが開き
　電話番号を登録することができます。

5.9.2 ワンタッチボタンへの登録

「編集」または登録されていない「ワンタッチボタン」をクリックすると、ワンタッチボタン一覧フォームを開きます。

ここで「ワンタッチボタン」の登録、修正等を行います。

登録したデータを、他の「ワンタッチボタン」にコピーしたい場合は、コピー元のレコードにカーソルを合わせ、「コピー」をクリックしてください。

その後、コピー先のレコードにカーソルを合わせ、「貼り付け」をクリックすると、データがコピーされます。

登録したデータを削除したい場合は、削除したいレコードにカーソルを合わせ、「クリア」をクリックしてください。

5.9.3 顧客情報フォームから「ワンタッチボタン」への登録

顧客情報フォームからも、「ワンタッチボタン」への登録をすることができます。

氏名、番号属性、会社 TEL を入力した状態で、登録したい電話番号にカーソルを合わせ、「ワンタッチボタンに登録」をクリックします。

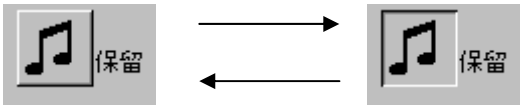
ワンタッチボタン一覧フォームが開き、名前、電話番号が登録されます。

※選択したレコードの会社 TEL が入力されていない場合、またはワンタッチボタンの登録件数が最大(50 件)の場合は、「ワンタッチボタン」への登録を行うことができません。

5.10　保留・保留解除

フォームにある「保留」により、現在ツールバーに表示されている通話の保留・保留解除ができます。

「保留」の表示は次の様に変わります。



通常　　保留中

5.11 通話記録

通話記録は環境設定で指定されたテーブルに、記録されます。(その内容・種類は、環境設定で設定します)

通話記録フォームには、設定されたテーブルの内容が表示されます。

絞り込みを行いたい条件がある場合には、「抽出」をクリックし、抽出条件を設定し、通話記録データを絞り込むことができます。

抽出を解除する場合には、「抽出解除」をクリックすると、全データを表示します。

カーソル位置に音声ファイルが存在する場合は、「再生」をクリックすると、再生ダイアログを表示します。

「フォームを開く」をクリックすると、該当する顧客情報フォームが開きます。

「発信」をクリックすると、カーソル位置の電話番号に、発信します。

「切断」をクリックすると、現在の通話を切断します。

通話記録は、環境設定で設定された指定曜日もしくは指定日を経過すると、次に ViewTalk Light を起動したときに自動的に csv 形式でファイル出力されます。

通話録音ファイルが存在すると、wav ファイルも音声ファイルの保存先から通話記録出力先に指定されたフォルダに出力されます。

※ csv 形式とはデータが ‘, ’ (カンマ)で区切られたテキストファイルで、Microsoft Excel 等で読み込むことができるファイル形式です。

手動でファイル出力するときは、ツールバーの環境設定と同様にツールバー上でのマウスの右クリックでメニューを出し、「ファイルへログ出力」を選択します。

ファイルが出力されると、通話記録テーブルからデータが自動的に削除されます。

Microsoft Access がオートナンバーで通話記録 ID を付与しているために、通話する毎に番号が大きくなりますが、その場合には一旦 ViewTalk Light を終了した後、Microsoft Access を単独で起動し、Shift キーを押しながらデータベースファイルを開き、Microsoft Access のツールのデータベースユーティリテイで最適化を実行してください。

VTL 顧客管理データベースファイルをご使用の場合は、「スタート」→「プログラム」→「NEC」→「ViewTalk Light」メニューの「データベースの最適化」をクリックすることで最適化を行えます。

通話記録が 1000 件を超えると、データベースファイルが大きくなりすぎるのを防ぐために、ViewTalk Light の起動時に通話記録のファイル出力を促すメッセージが表示されますので、早めにファイル出力を行ってください。

サーバクライアント環境で Microsoft Access のファイルを共有してご使用になる場合、通話記録をクライアント毎に残すために、以下の変更を行ってください。

① VTL 顧客管理データベースファイルの中の通話記録テーブルは個人毎に必要なので、異なるテーブルを作成してください。
② 環境設定の通話記録テーブル名も併せて変更してください。
③ 通話記録ファイルを出力する場合、共有するサーバ上にファイルを出力するときには各クライアント毎に異なるファイル名を指定してください。

◎ 通話記録の制限事項

通話記録に電話番号が正しく記録されるのは、発信者番号のある外線着信と、 パソコンの画面より発信(Microsoft Access の顧客情報フォームおよび連続発信)した場合です。

併設の電話機より発信した外線通話については、相手応答のタイミングにより正しく記録されないことがあります。

また、内線通話や会議通話については電話番号が正しく記録されない場合があります。

5.12　応対記録

顧客情報フォームの「応対記録」をクリックすると下記の画面が表示されます。

応対日、応対時刻には、用件を入力した時間が表示されます。

用件は、ドロップダウンリストより選択することができます。用件のドロップダウンリストの内容は、「その他のフォーム」の「応対記録（用件）の編集」で設定された内容が表示されます。また、手入力することも可能です。

応対メモは、用件に入りきらない場合などに、使用します。

「音声ファイル添付」をクリックすると、現在録音しているファイル名が音声ファイル表示欄に表示されます。

カーソル位置に音声ファイルが存在する場合は、「再生」をクリックすると、再生ダイアログが表示されます。

項目1、項目2、項目3の編集も可能です。

5.13　通話の録音･再生

Aspire X システムでは ADA-L ユニット、Aspire システムでは CTU ユニットをご使用の場合に限り、本機能を使用することができます。

5.13.1　録音

◎ 環境設定で「自動通話録音を行う」がチェックされている場合

通話が開始すると同時に録音を開始します。

◎ 環境設定で「自動通話録音を行う」がチェックされていない場合

通話時に顧客情報フォームの「録音」をクリックすると録音を開始します。

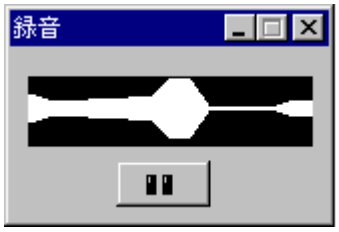
録音が開始されると以下のフォームを表示します。

録音フォームの をクリックすると録音を一時停止します。

一時停止すると、 は、 に変わります。 をクリックすると、録音が再開され、ボタンは に変わります。

右上の「×」でフォームを閉じるか、通話を終了すると録音は終了します。録音内容は、環境設定で指定したディレクトリに wave ファイルとして保存されます。

通話記録と、応対記録には、wave ファイル名が表示されます。通話記録は自動的にファイル登録されますが、応対記録では、通話中または通話終了後に応対記録フォームの「音声ファイル添付」をクリックする必要があります。



[録音中]

[録音一時停止中]

5.13.2　再生

通話記録フォームまたは応対記録フォームで、音声ファイルが登録されているレコードを選択して「再生」をクリックすると、再生フォームが表示されます。

をクリックすると再生が開始され、ボタンは に変わります。 をクリックすると再生は一時停止します。

をクリックすると最初に戻り再生を開始します。 をクリックすると全体の 5 分の 1 程進んだところから再生を開始します。

また、スライダーをマウスで移動させるとそこから再生が開始します。

をクリックすると、再生を終了します。

再生フォームが表示されているときに録音が開始されると、再生は強制的に終了され、再生フォームは閉じます。

[再生中]

[再生一時停止中]

通話記録のファイル出力を行うと、音声ファイルも自動的に出力されます。出力先は、通話記録のファイル出力先に、通話記録の出力ファイル名と同じ名前のディレクトリを作成し、そのディレクトリに出力します。

ファイル出力を行った後、応対記録で「再生」をクリックすると、音声ファイルの保存先を選択できますので、音声ファイル出力先を指定すると再生できます。

※ 通話録音再生を行う場合は、Aspire X システムでは ADA-L ユニット、Aspire システムでは CTU ユニットが必要です。

※ 再生デバイス指定を「電話機」とした場合、受話器を置いた状態では、電話機のスピーカから再生音声が聞こえます。受話器を上げた状態では、受話器から聞こえます。通話中に再生を行うと、通話相手にも再生音声が聞こえます。待機中に受話器を上げ再生した場合は、ダイヤルトーンが聞こえます。

※ 再生デバイス指定の「電話機」をチェックすると、電話機から音声が出力されます。

Aspire X システムで ADA-L をご使用の場合に、パソコンの音声出力側の端子(ヘッドホンまたはスピーカ端子)と ADA-L ユニットがオーディオケーブルで接続されている場合に、「PC」を選択して再生を行っても音声は出力されません。パソコンから音声を出力させるにはオーディオ

ケーブルをパソコンから抜いてパソコンの内蔵スピーカから出力させるか、パソコンの音声出力側の端子(ヘッドホンまたはスピーカ端子)にヘッドホンまたは外部スピーカなどに接続しなおす必要があります。

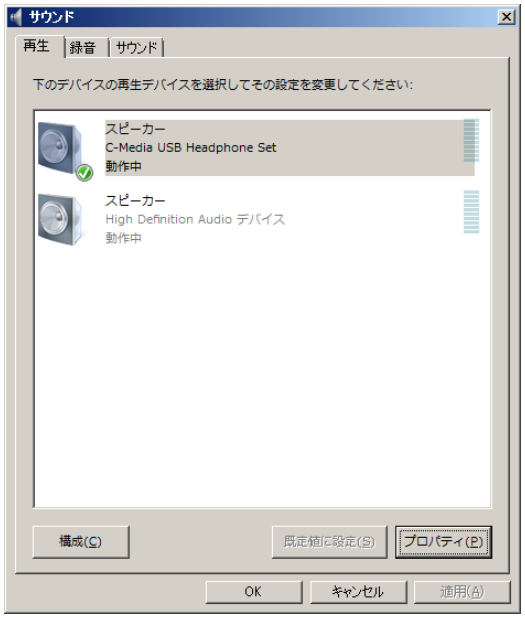
Aspire システムで CTU をご使用の場合、「PC」を選択して再生した場合は、パソコンから音声が出力されます。ただし、パソコンにサウンド機能がない場合は、「PC」は選択できません。

5.13.3　電話機での再生・録音設定 (Aspire Xシステムの場合)

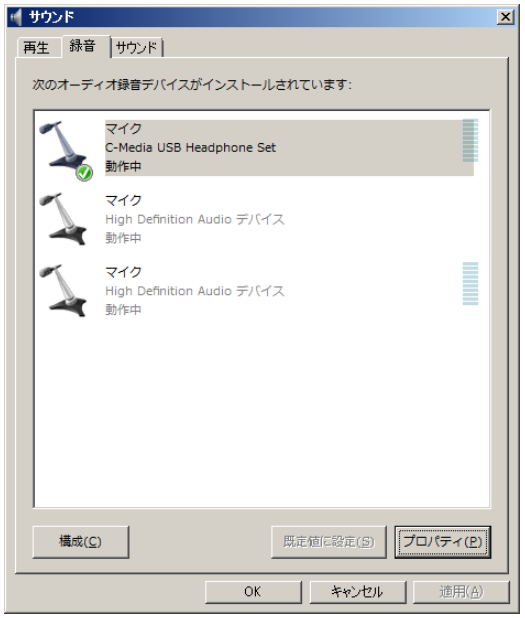
Aspire X システムで ADA-L ユニットを使用して電話機で再生・録音する場合は、ADA-L ユニットにオーディオケーブルで接続したデバイスを既定に設定する必要があります。

Windows Vista の場合は「コントロールパネル」→「サウンド」→「オーディオ」を開き、使用するデバイスを選択して「既定値に設定」をクリックし緑のチェックマークがついている状態にします。

再生デバイスの指定



録音デバイスの指定



※ デバイス名はご使用のパソコンの機種により異なります。
(上の画面は[C-Media USB Headphone Set]というデバイスと ADA-L ユニットをオーディオケーブルで接続した場合の例です。)

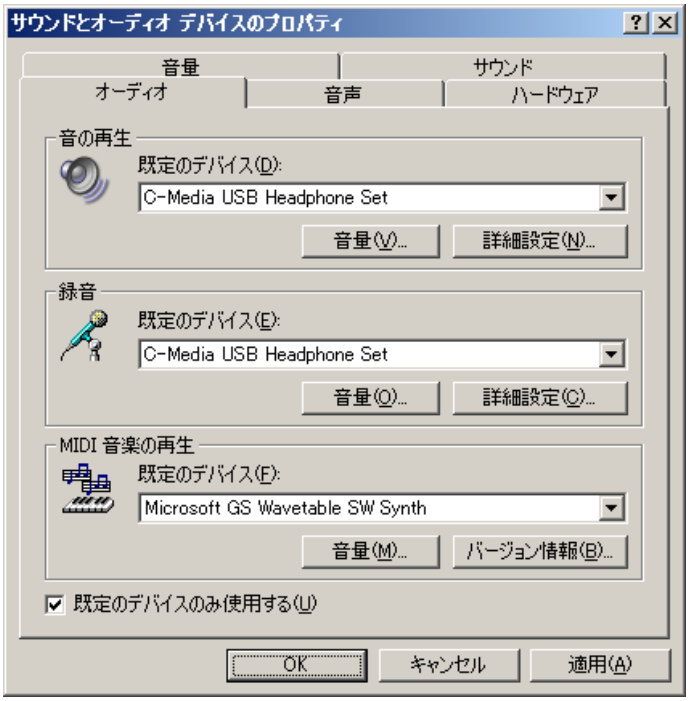
※ ADA-L ユニットを使用しオーディオケーブルで電話機に接続している場合、他のアプリケーションが再生した音声を電話機からもパソコンからも出力させることはできません。この場合 ViewTalk Light から再生操作を行ったときのみ電話機から音声が出力されます。ただし ViewTalk Light で再生中に、Windows の警告音や他のアプリケーションで再生を行ったときは、その音声も電話機に出力されます。

※ 電話機からの再生を行わない場合は、オーディオデバイスの再生側の端子(スピーカ、またはヘッドホン端子)と ADA-L ユニットの IN 端子をオーディオケーブルで接続しないでください。またその場合は ViewTalk Light の再生画面では再生デバイス指定で必ず PC を選択して再生してください。

※ Windows XP をご使用の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」→「オーディオ」から行ないます。

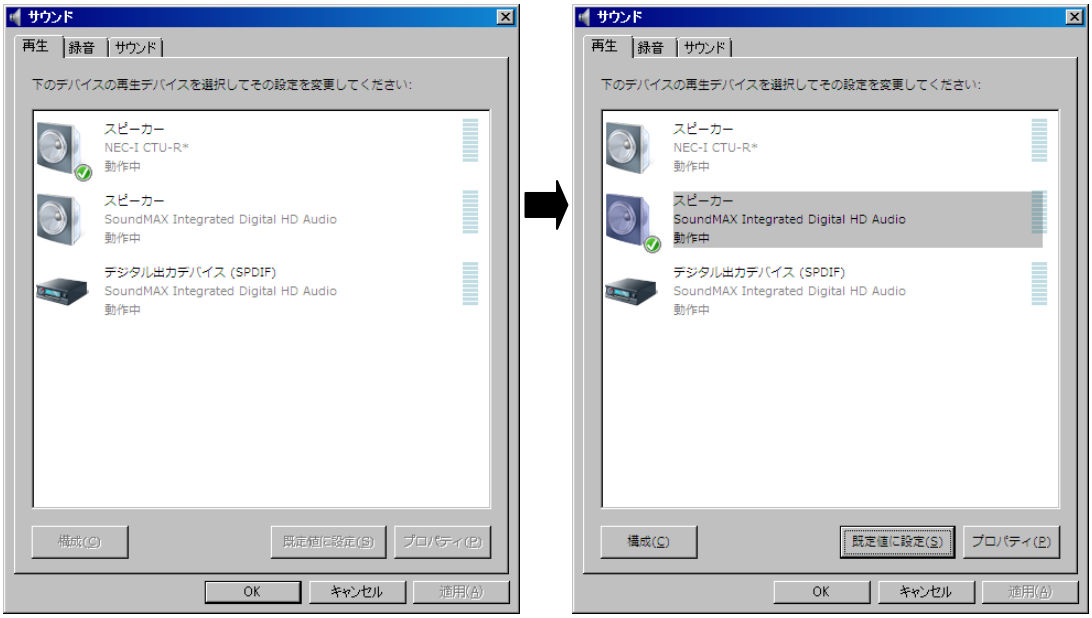
※ Windows 2000 をご使用の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」→「オーディオ」から行ないます。

Windows XP の場合：



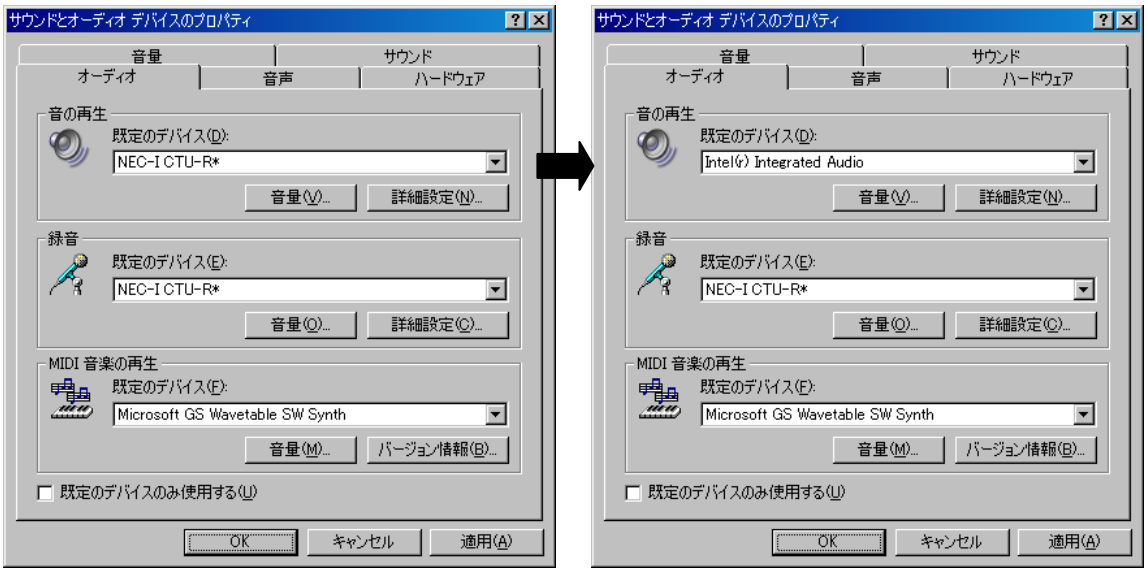
5.13.4　パソコンへの再生設定　(Aspireシステムの場合)

Aspire システムをご使用の場合に CTU ユニットをセットアップすると、Microsoft Windows に登録されているオーディオの優先するデバイス(「コントロールパネル」→「サウンド」→「オーディオ」)が CTU のデバイス(「NEC-I CTU-R*」)に変更されます。この場合、再生フォームで「PC」を選択しても、電話機から音声が再生されます。パソコンのスピーカから再生するためには、既定のデバイスをパソコンが持っているデバイスに変更してください。パソコンのサウンドデバイスを選択して「既定値に設定」ボタンをクリックします。パソコンが持っているデバイスは、パソコンの機種により名称が異なります。また、デバイスが無い場合もあります。



※ Windows XP をご使用の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」→「オーディオ」から行ないます。

※ Windows 2000 をご使用の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」→「オーディオ」から行ないます。



5.13.5　録音レベルの調整

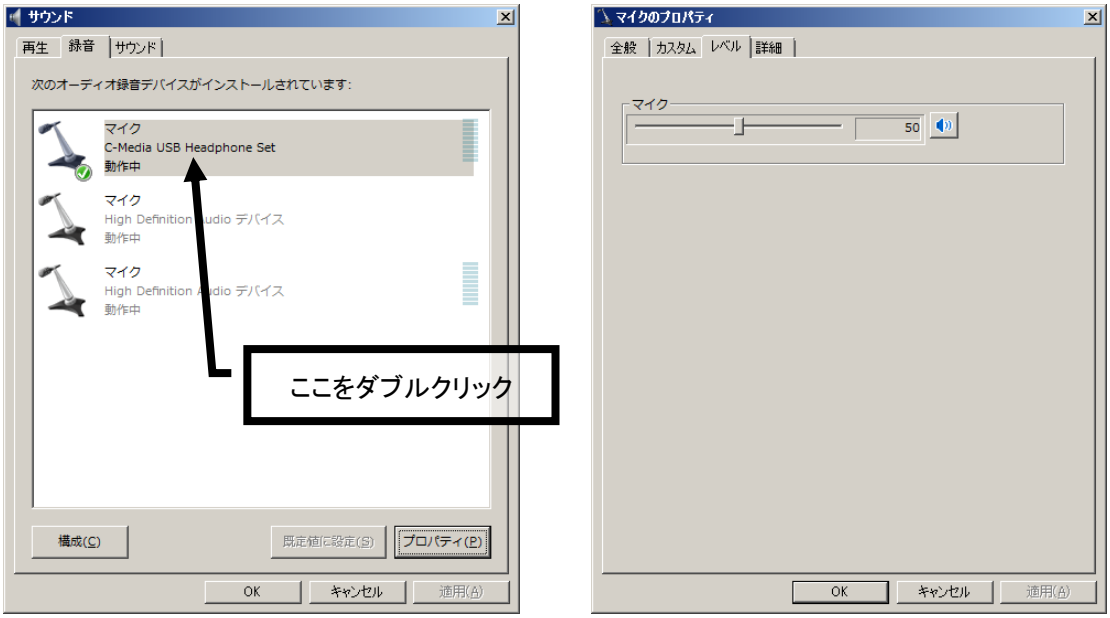
録音レベルの調整は、Microsoft Windows の「コントロールパネル」→「サウンド」→「録音」で行います。

Aspire X の場合は ADA-L を接続しているオーディオデバイスをダブルクリック、またはデバイスを選択して「プロパティ」ボタンをクリックすると、マイクのプロパティ画面が表示されます。

Aspire の場合は CTU のデバイス(NEC-I　CTU-R*)をダブルクリック、または CTU のデバイスを選択して「プロパティ」ボタンをクリックすると、マイクのプロパティ画面が表示されます。

マイクのプロパティ画面の「レベル」タブで音量のスライドつまみで録音レベルを調整し、画面を閉じます。

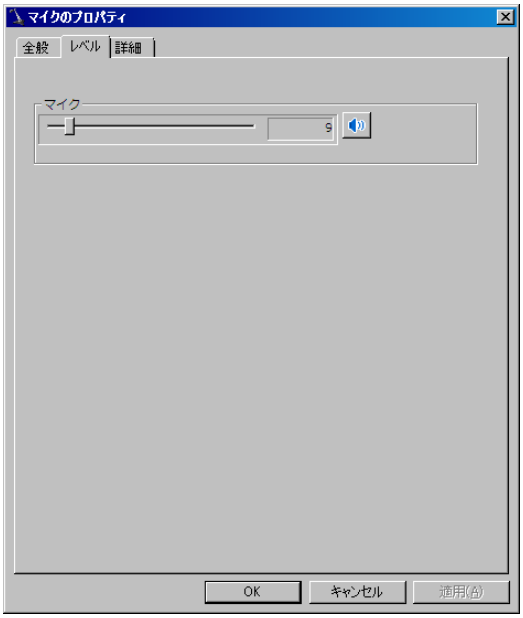
Aspire X で ADA-L ユニットを使用する場合：



※オーディオデバイス名は、パソコンの機種により異なります。

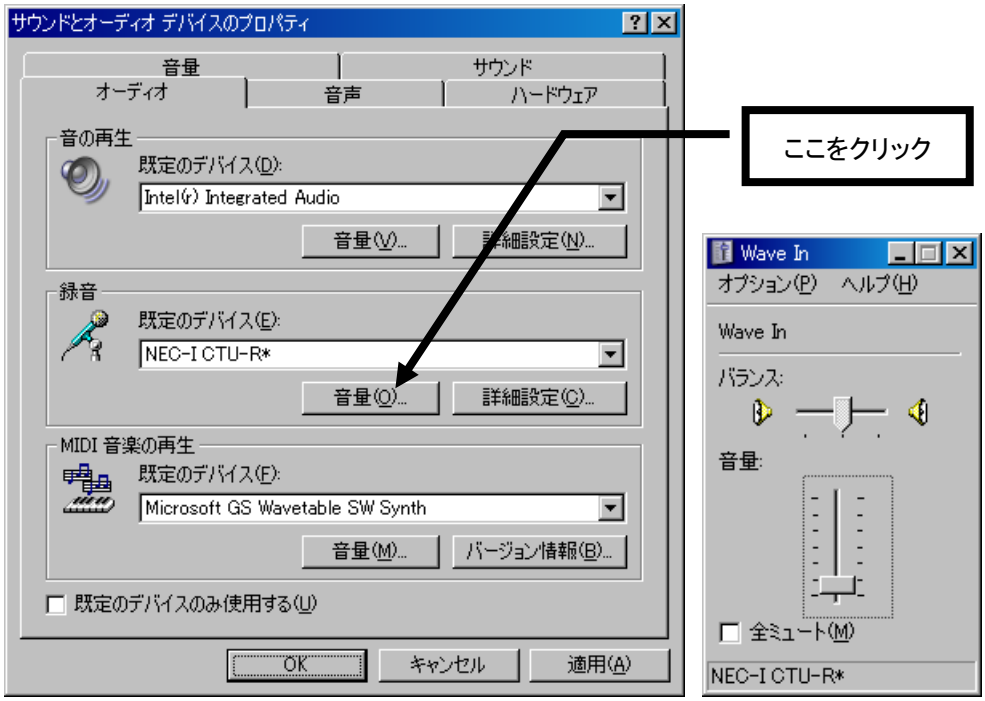
（上の画面は[C-Media USB Headphone Set]というデバイスと ADA-L ユニットをオーディオケーブルで接続した場合の例です。）

Aspire で CTU ユニットを使用する場合：



※ Windows XP をご使用の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」→「オーディオ」から行ないます。

※ Windows 2000 をご使用の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」→「オーディオ」から行ないます。



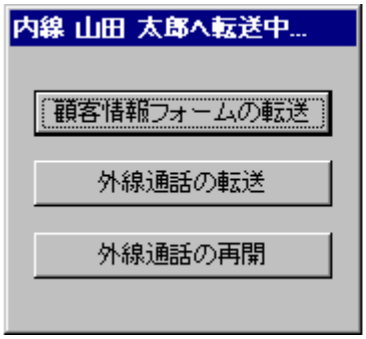
5.14　転送

5.14.1　顧客情報フォームの転送

外線通話中になると「転送」がアクティブ(クリック可能状態)になります。

通話中に、ツールバー上の「転送」をクリックすると社員情報一覧より、転送情報がドロップダウン形式で表示されますので、そこから任意の内線番号を選択します。

転送先の内線番号を選択し、クリックすると、外線通話が保留され内線を呼び出します。その後、フォーム転送用ダイアログボックスが表示され、「顧客情報フォームの転送」と「外線通話の転送」がアクティブになります。



「顧客情報フォームの転送」をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。

- 確認ダイアログの「はい」をクリックすると転送先のパソコンの画面に顧客情報フォームを転送し、フォーム転送ダイアログボックスに戻ります。
- 確認ダイアログの「いいえ」をクリックすると顧客情報フォームの転送中止し、フォーム転送ダイアログボックスに戻ります。

「外線通話の転送」をクリックすると、外線通話の転送後、フォーム転送ダイアログを閉じて終了します。

「外線通話の再開」をクリックすると、内線通話を終了し、保留外線の再捕捉を行った後、フォーム転送ダイアログを閉じます。

5.14.2　通話録音メッセージの投函

外線通話中に、ツールバー上の「転送」をクリックすると、社員情報一覧より、転送情報がドロップダウン形式で表示されますので、そこから任意のボイスメール番号（「VM」と表記）を選択することにより、ボイスメールへ通話録音したメッセージを転送するBOXを、指定することができます。

メッセージを転送するBOXを指定すると、確認ダイアログボックスが表示されます。

・「はい」をクリックすると、録音メッセージ投函ダイアログボックスが表示され、 ボイスメールへ、通話録音メッセージの投函を設定します。
　通話が終了すると、自動的にダイアログボックスを閉じて終了します。
・「いいえ」をクリックすると、確認ダイアログボックスを閉じて終了します。

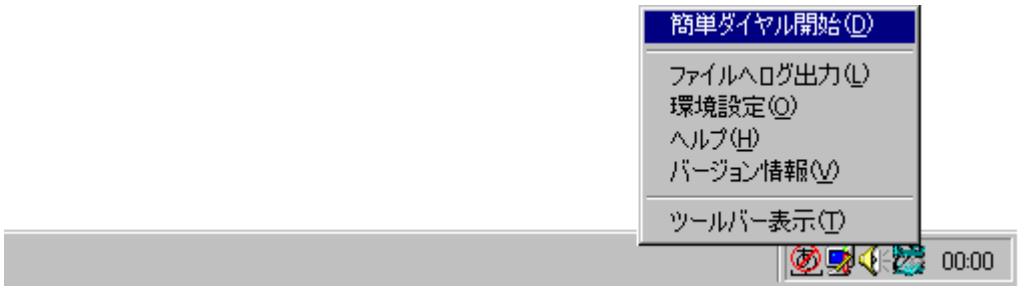
※ あらかじめ主装置でボイスメールの自動通話録音の設定が必要です。
（主装置のボイスメールのメールボックスに録音されます。）

5.15　簡単ダイヤル

5.15.1　簡単ダイヤルの起動・終了

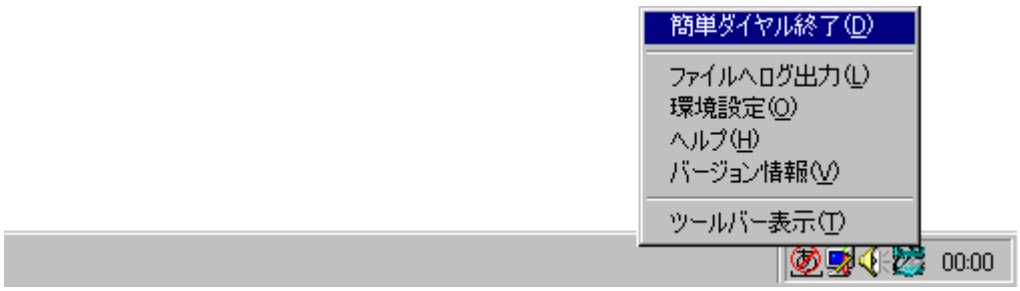
ツールバーの表示エリア以外のところでマウスの右ボタンをクリックすると ViewTalk Light のメニューが表示されますので、「簡単ダイヤル開始」を選び、クリックすると、簡単ダイヤルが起動します。

ツールバーがタスクトレイに格納されている状態では、タスクトレイアイコン上で右ボタンをクリックし「簡単ダイヤル開始」を選び、クリックしてください。



簡単ダイヤルを終了するには、ツールバーの表示エリア以外のところでマウスの右ボタンをクリックすると ViewTalk Light のメニューが表示されますので、「簡単ダイヤル終了」を選び、クリックすると、簡単ダイヤルが終了します。

ツールバーがタスクトレイに格納されている状態では、タスクトレイアイコン上で右ボタンをクリックし「簡単ダイヤル終了」を選び、クリックしてください。



また、簡単ダイヤル右上の「×」をクリックしても終了させることができます。

5.15.2　簡単ダイヤルから発信

簡単ダイヤルを使用して発信するには、次の二つの方法があります。

① ダイアログ上の電話番号欄に電話番号を入力し、発信する方法

簡単ダイヤルダイアログボックス上の電話番号欄に電話番号を入力します。

「発信」をクリックすると入力した電話番号に発信します。

② アプリケーション上に表示された電話番号を取得し、発信する方法

簡単ダイヤルは、Web ブラウザやワードプロセッサソフトウェアなどの各種 Windows アプリケーション上に表示された電話番号を取得し発信することができます。

(数字や‘#’、‘＊’などのダイヤル記号以外の文字や記号は自動的に排除されます。)

ここでは、メモ帳上の電話番号に発信する例を記します。

簡単ダイヤルを起動し、電話番号が書いてあるメモ帳を開きます。

電話番号が書いてある場所をマウスでなぞって反転表示させ、マウスの右ボタンをクリックすると、反転表示させた電話番号が、簡単ダイヤル上の電話番号欄に取得されます。

「発信」をクリックするとダイアログに入っている電話番号に発信します。

※簡単ダイヤル動作確認アプリケーション

Microsoft Access 97、Microsoft Access 2000、Microsoft Access 2002

Microsoft Access 2003、Microsoft Access 2007

Microsoft Excel 97、Microsoft Excel 2000、Microsoft Excel 2002

Microsoft Excel 2003、Microsoft Excel 2007

Microsoft Word 97、Microsoft Word 2000、Microsoft Word 2002

Microsoft Word 2003、Microsoft Word 2007

Microsoft Outlook 97、Microsoft Outlook 2000、Microsoft Outlook 2002

Microsoft Outlook 2003、Microsoft Outlook 2007

メモ帳：Microsoft Windows 2000

Microsoft Windows XP

Microsoft Windows Vista

ワードパッド：Microsoft Windows 2000

Microsoft Windows XP

Microsoft Windows Vista

Microsoft Outlook Express 5、Microsoft Outlook Express 6

Microsoft Windows Mail

Microsoft Internet Explorer 5、Microsoft Internet Explorer 6

Microsoft Internet Explorer 7

Netscape 4、Netscape 7

Adobe Acrobat Reader 4、Adobe Acrobat Reader 5、Adobe Acrobat Reader 8

WeMail32 Ver.2.05

秀丸エディタ Ver.3.08

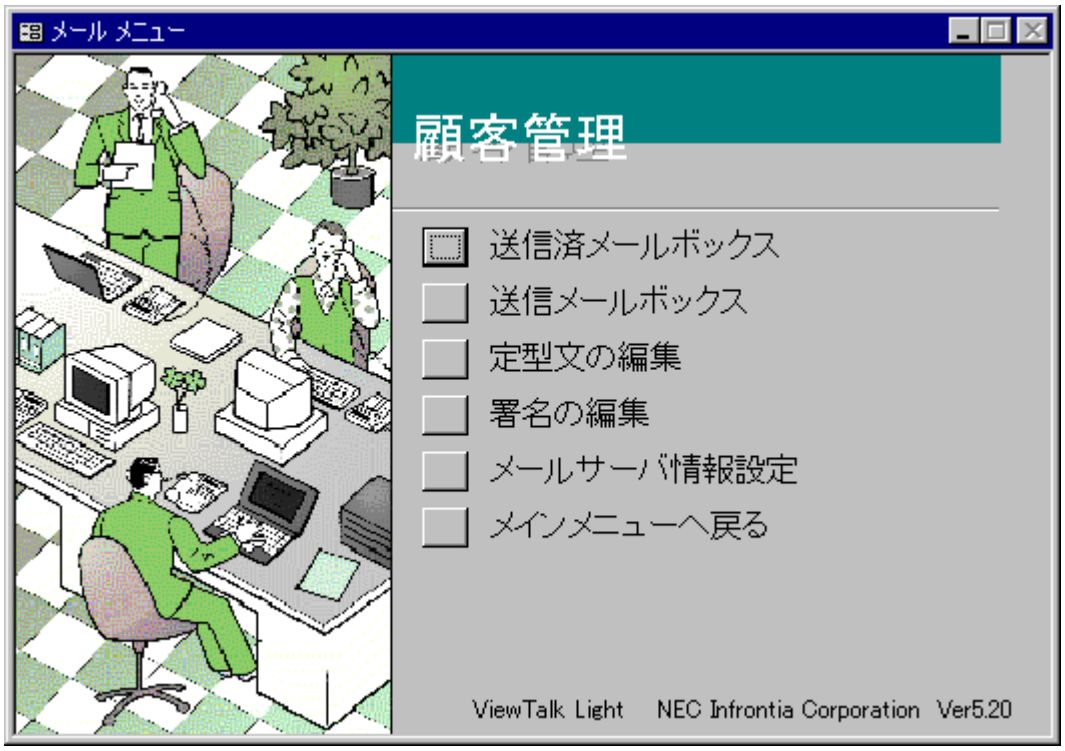
※ 簡単ダイヤルが起動中は、Windowsの通常のマウス右クリック操作が正常に動作しない場合があります。Windowsの通常のマウス右クリック操作をご使用される場合は、簡単ダイヤルダイアログを最小化してください。

5.16　メール送信

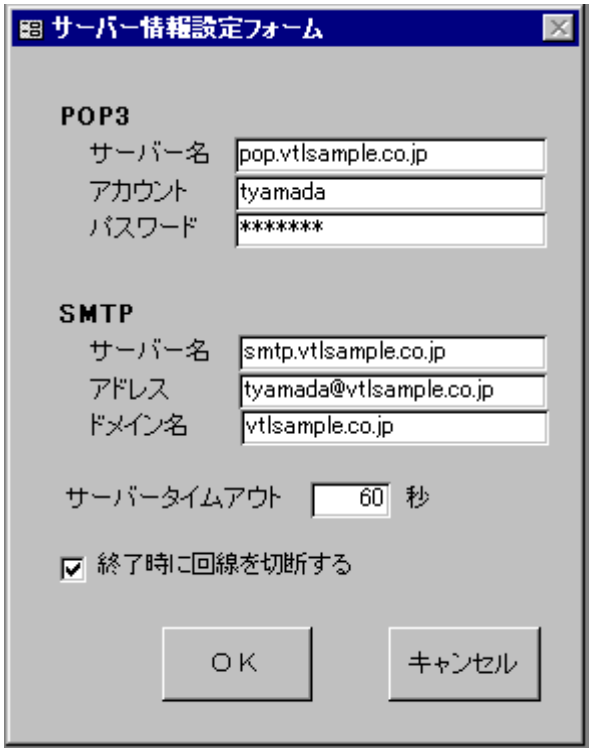
5.16.1　メールサーバ情報設定

メインメニューから「メール」をクリックし、メールメニューを表示します。

メールメニューから「メールサーバ情報設定」をクリックします。



メールサーバの設定を行い、「OK」をクリックしてください。



各設定項目の内容は以下の通りです。

POP3:

サーバ名・・・・・・・・・・・・POP3 のサーバ名称を設定する。

アカウント・・・・・・・・・・・ サーバに登録されているアカウントを設定する。

パスワード・・・・・・・・・・・アカウントに対するパスワードを設定する。

SMTP:

サーバ名・・・・・・・・・・・・SMTP のサーバ名称を設定する。

アドレス・・・・・・・・・・・・・ 送信時に使用するメールアドレスを設定する。

ドメイン名・・・・・・・・・・・・送信時に使用するドメイン名を設定する。

サーバタイムアウト:

サーバからの応答待ち時間(秒)を設定する。

終了時に回線を切断する:

メール送信終了時に回線を切断する場合、チェックする。

サーバ情報設定が正しく設定されていないと、メールを送信することはできません。

サーバ情報の設定内容については、ネットワーク管理者または、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

またメールサーバの仕様により VTL からメール送信を行うことができないことがあります。例えば送信サーバ(SMTP)で認証が必要な場合には対応しておりません。

5.16.2　送信メール作成

送信メール作成フォームでメールを作成します。

このフォームは以下のボタンをクリックした場合開かれます。

また、「宛先」欄、および、定型文の「顧客情報」、「社員情報」には、このフォームをどこから開いたかにより、設定されている場合と設定されていない場合があります。

- 顧客情報フォームの「担当者へ」

  宛先に担当者が設定されています。

  定型文の「顧客情報」欄に顧客が設定されています。

  定型文の「社員情報」欄に顧客の担当者が設定されています。

- 送信済メールボックスの「再送」

  送信した相手が宛先に設定されています。

- 送信済メールボックスの「転送」

  設定されていません。

- 送信済メールボックス、送信メールボックスの「新規」

  設定されていません。

- 送信メールボックスの「開く」

  送信する相手が宛先に設定されています。

① 宛先の指定

・宛先を選択する場合

「宛先選択」をクリックし、宛先を選択します。

「宛先選択」をクリックすると、アドレス帳が開きます。

「顧客アドレス帳」、「社員アドレス帳」は、それぞれ顧客情報、社員情報で登録した内容を表示しています。

メールを送信したい相手のレコードを選択し、宛先属性を指定して「選択」をクリックすると、宛先に追加されます。

宛先属性の内容は以下の通りです。

TO　　:メッセージが直接宛先に送信されます。

CC　　:メッセージのコピーが宛先に送信されます。
　　受信者の名前は、他の受信者から参照できます。

BCC　:メッセージのコピーが宛先に送信されます。
　　受信者の名前は、他の受信者から参照できません。

「抽出」をクリックし条件を設定することにより、顧客または社員の絞込みを行うことができます。

抽出状態は「抽出解除」で解除することができます。

・宛先を削除する場合

選択した宛先を削除したい場合は、送信メール作成フォームの「宛先」欄で削除したいレコードを選択し、キーボードの「Delete」キーをクリックします。

削除確認のダイアログボックスが表示されるので、「はい」をクリックすると削除することができます。「いいえ」をクリックすると削除されません。

② 「表題」欄、「本文」欄について

「表題」欄は全角 15（半角 30）文字表示されます。

「本文」欄は 1 行につき全角 10（半角 20）文字表示されます。

「本文」欄で文字が表示しきれない場合は、「本文」欄右側に画面をスクロールするためのスクロールバーが表示されます。

「本文」欄には「署名編集フォーム」で設定した署名が自動的に挿入されています。

「文字数」欄には署名も含めた本文の文字数（半角文字数）が表示されます。

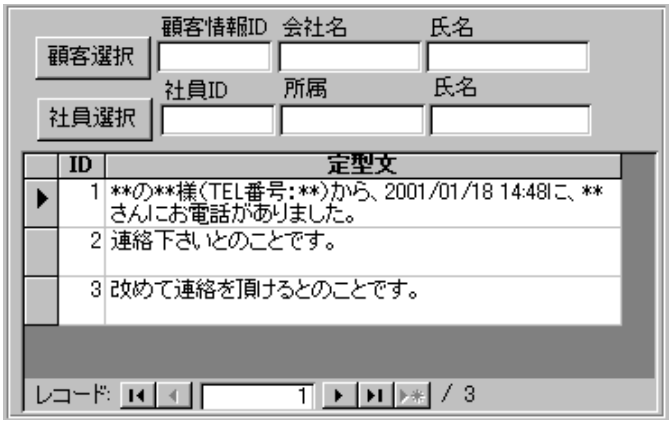
③ 「定型文」欄について

定型文とはメール内容として、よく使用される文章のことです。

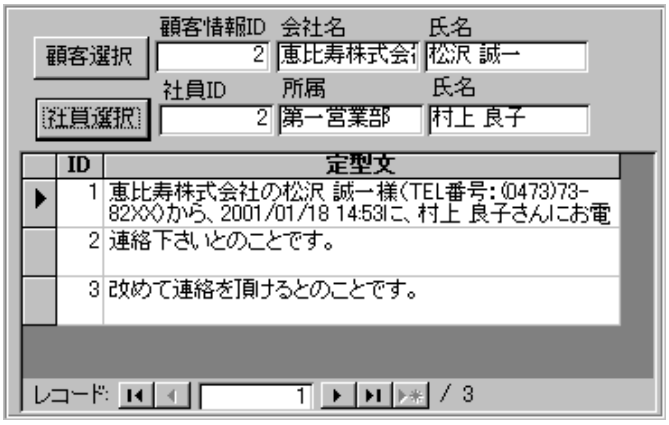
定型文を選択し「挿入」をクリックすることで、「本文欄」に定型文を挿入することができます。

定型文は複数登録することができ、また、定型文内に顧客情報、社員情報を反映させることができます。

顧客情報、社員情報が設定されていない場合、定型文の顧客情報を反映している箇所は「＊＊」と表示されています。



定型文に顧客情報、社員情報を反映させるためには、それぞれ「顧客選択」、「社員選択」をクリックし「社員アドレス帳」、「顧客アドレス帳」を開いて、各情報を指定します。



送信メール作成フォームを以下のフォームから開いた場合、「顧客」欄、「社員」欄が選択されている場合があります。

「顧客情報フォーム」の「担当者へ」から開いた場合

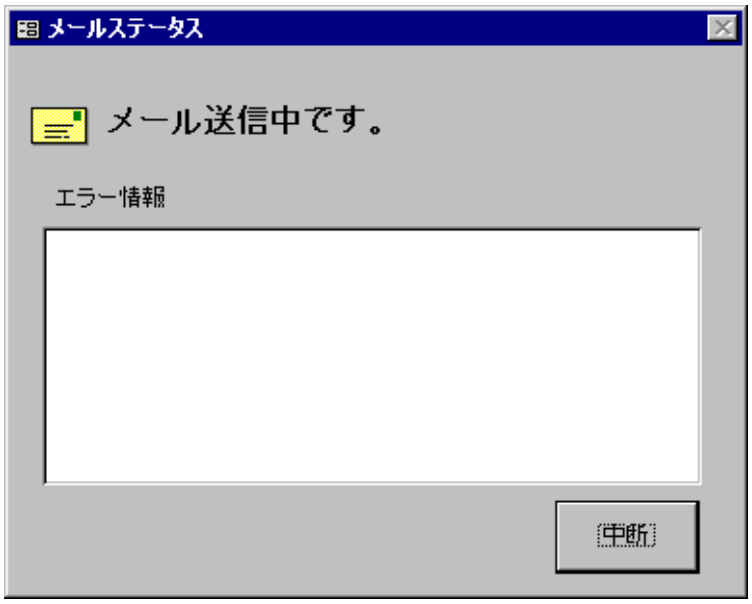
・「顧客」欄に開き元顧客が選択されています。

・「社員」欄に開き元顧客の担当者が選択されています。

④　各ボタンの説明

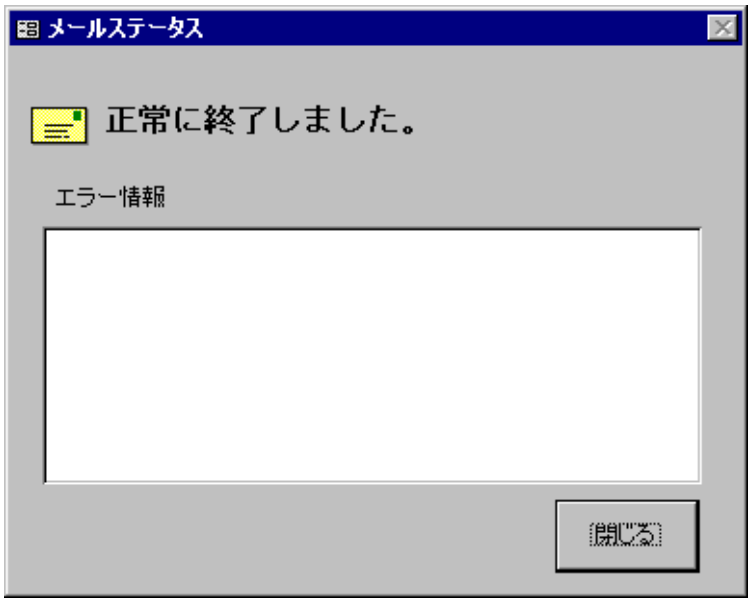
・「送信」ボタン

「送信」をクリックすると、「メールステータス」ダイアログボックスが表示され、作成したメールが送信されます。

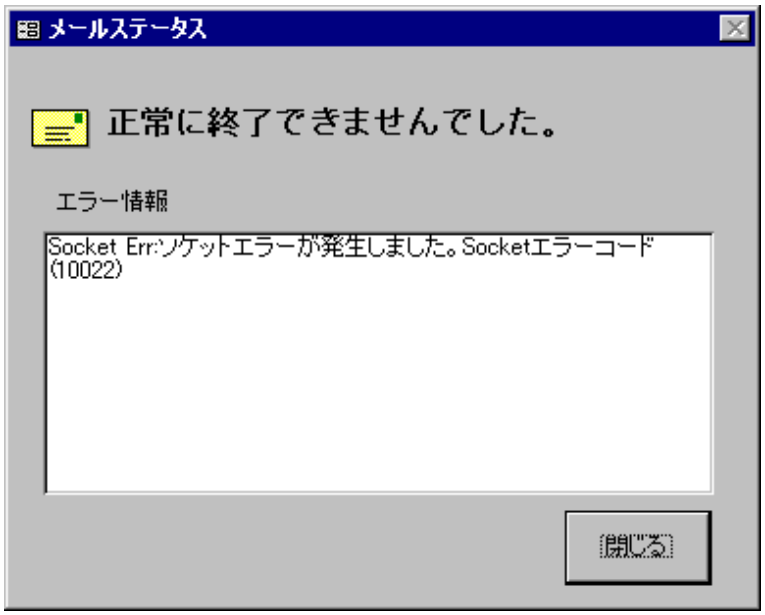


画面上部には送信状態が表示されます。

送信が終了すると、「中断」が「閉じる」に変わります。



送信時にエラーが発生すると、「エラー情報」欄にエラー情報が表示され、「送信メールボックス」に送信待状態で保存されます。



原因を取り除き、送信してください。

・「送信待」ボタン

「送信待」をクリックすると、メールは送信されず「送信メールボックス」に送信待状態で保存されます。

・「保留」ボタン

「保留」をクリックすると、メールは送信されず「送信メールボックス」に保留状態で保存されます。

・「閉じる」ボタン

送信メール作成フォームをどこから開いたかにより、動作が異なります。

「送信メールボックス」の「開く」から開いた場合

「閉じる」をクリックすると、作成したメールを保存します。

「送信メールボックス」以外から開いた場合

「閉じる」をクリックすると、確認のメッセージが表示され、「はい」をクリックすると、作成したメールを破棄します。「いいえ」をクリックすると、「閉じる」をクリックする前の状態になります。

5.16.3　送信済メールボックス

メールメニューから「送信済メールボックス」をクリックします。

各フィールドに送信済メールの情報が表示されます。

「状態」フィールドには、送信したメールの状態が表示されます。

状態は以下の通りです。

- 再送：送信したメールを、再度送信しようとした状態
- 転送：送信したメールを、別の相手に送信しようとした状態

「日付」フィールドには、メールを送信した日付と時刻が表示されます。

「宛先」フィールドにはメールを送信した相手の名称が表示されます。

「宛先アドレス」フィールドにはメールを送信した相手のメールアドレスが表示されます。

「顧客情報 ID」フィールド、「社員 ID」フィールドにはメールを送信した相手の ID が表示されます。

「表題」フィールドには送信したメールの表題が表示されます。

複数の宛先に送信した場合、「宛先フィールド」内の▼をクリックすると、他の宛先、宛先アドレス、顧客情報 ID、社員 ID が表示されます。

- 「送信待」欄、「保留」欄

  送信メールボックス内の送信待メール、保留メールの件数が表示されます。

・「開く」ボタン

「開く」をクリックすると、「送信済メールフォーム」が開きます。

このフォームには選択したレコードの送信済メールの情報が表示されます。

・「再送」ボタン

「再送」をクリックすると、選択した送信済メールの宛先、表題、本文が入力された状態で、「送信メール作成フォーム」が開きます。

選択したレコードの状態が、「再送」になります。

・「転送」ボタン

「転送」をクリックすると、選択した送信済メールの表題、本文が入力された状態で、「送信メール作成フォーム」が開きます。

選択したレコードの状態が、「転送」になります。

・「抽出」ボタン

「抽出」をクリックすると、「抽出フォーム」が表示され、条件を指定することにより、絞込みを行うことができます。

・「抽出解除」ボタン

「送信済メールフォーム」が抽出状態の場合、「抽出解除」をクリックすると、抽出状態が解除されます。

・「削除」ボタン

「削除」をクリックすると、選択しているメールを削除することができます。

・「新規」ボタン

「新規」をクリックすると、「送信メール作成フォーム」を開きます。

・「閉じる」ボタン

「閉じる」をクリックすると、「送信済メールボックスフォーム」を閉じます。

5.16.4　送信メールボックス

メールメニューから「送信メールボックス」をクリックします。

送信メールボックスには、未送信メールの一覧が表示されます。

各フィールドに作成したメールの情報が表示されます。

「状態フィールド」には、作成したメールの保存状態が表示されます。

・送信待　：メールの作成が完了した状態。

「全て送信」をクリックすると送信されます。

・保留　　：メールの作成が途中の状態。

「全て送信」をクリックしても送信されません。

「日付フィールド」には、メールを保存した日付と時刻が表示されます。

上記2つ以外のフィールドについては送信済メールボックスと同様です。

・「送信待」欄、「保留」欄

送信待メール、保留メールの件数が表示されます。

・「開く」ボタン

「開く」をクリックすると、選択した未送信メールの宛先、表題、本文が入力された状態で、「送信メール作成フォーム」が開きます。

・「全て送信」ボタン

「全て送信」をクリックすると、送信待状態のメールが、全て送信されます。

保留状態のメールは、送信されません。

・「削除」ボタン

「削除」をクリックすると、選択しているメールを削除することができます。

・「新規」ボタン

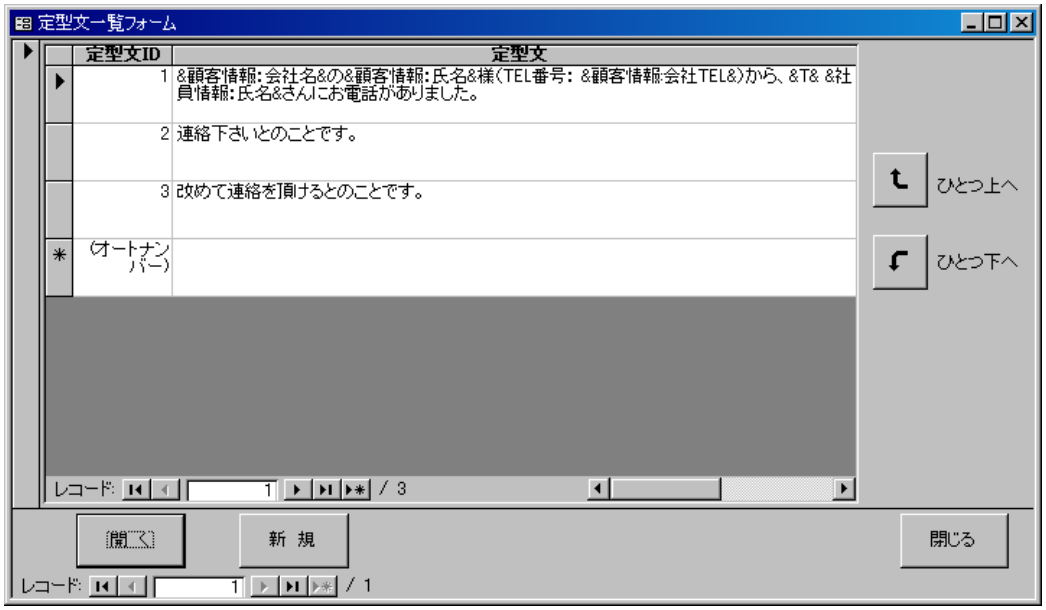
「新規」をクリックすると、「送信メール作成フォーム」を開きます。

・「閉じる」ボタン

「閉じる」をクリックすると、「送信メールボックスフォーム」を閉じます。

5.16.5　定型文の編集

メールメニューから「定型文の編集」の左側のボタンをクリックすると、「定型文一覧フォーム」が開きます。



このフォームでは設定されている定型文を確認することができます。

定型文の表示順を変更したい場合は、レコードを選択し、「ひとつ上へ」「ひとつ下へ」をクリックすることにより、上下へ移動することができます。

・「開く」ボタン

「開く」をクリックすると、「定型文編集フォーム」が開き選択したレコードの定型文が表示され、編集を行うことができます。

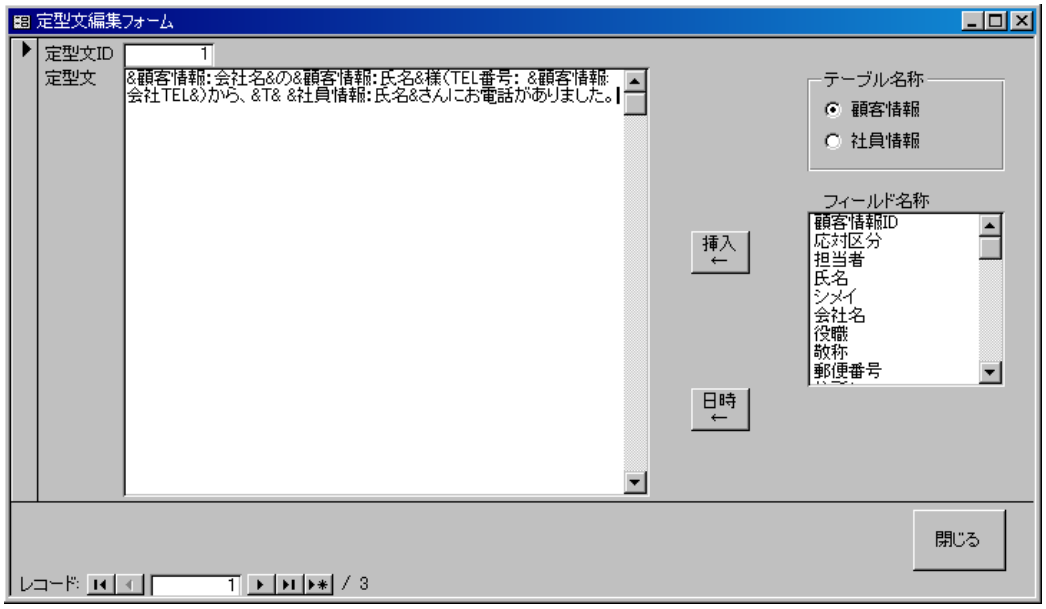
・「新規」ボタン

「新規」をクリックすると、「定型文編集フォーム」が開き、新しく定型文を登録することができます。

・「閉じる」ボタン

「閉じる」をクリックすると、「定型文一覧フォーム」が閉じます。

「定型文編集フォーム」で、「定型文」欄に入力した内容が定型文として使用されます。



定型文には、顧客情報や社員情報を反映させることができます。

「テーブル名称」欄の「顧客情報」「社員情報」を選択すると、「フィールド名称」欄にそれぞれのテーブルに対応したフィールドが表示されます。

定型文に使用したいフィールドを選択し、「挿入」をクリックすると、定型文に挿入されます。

表示は「&テーブル名称:フィールド名称&」となります。(例:&顧客情報:会社名&)

「&」で囲まれたものは、「送信メール作成フォーム」で定型文を使用する時、「顧客情報」「社員情報」を設定すると、対応したフィールドの情報に置き換わります。

5.16.6　署名の編集

メールメニューから「署名の編集」の左側のボタンをクリックすると、「署名編集フォーム」が開きます。

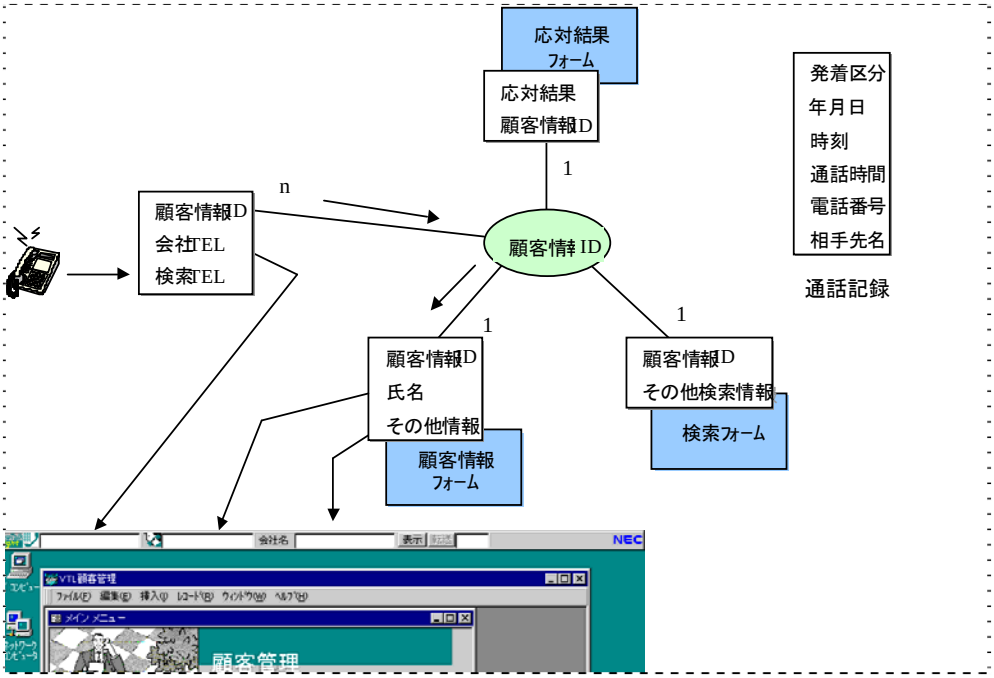
「署名」欄に入力したものが、メール作成時、署名として「送信メール作成フォーム」の「本文」欄に自動的に挿入されます。

5.17 Microsoft Access サンプルデータベースファイルについて

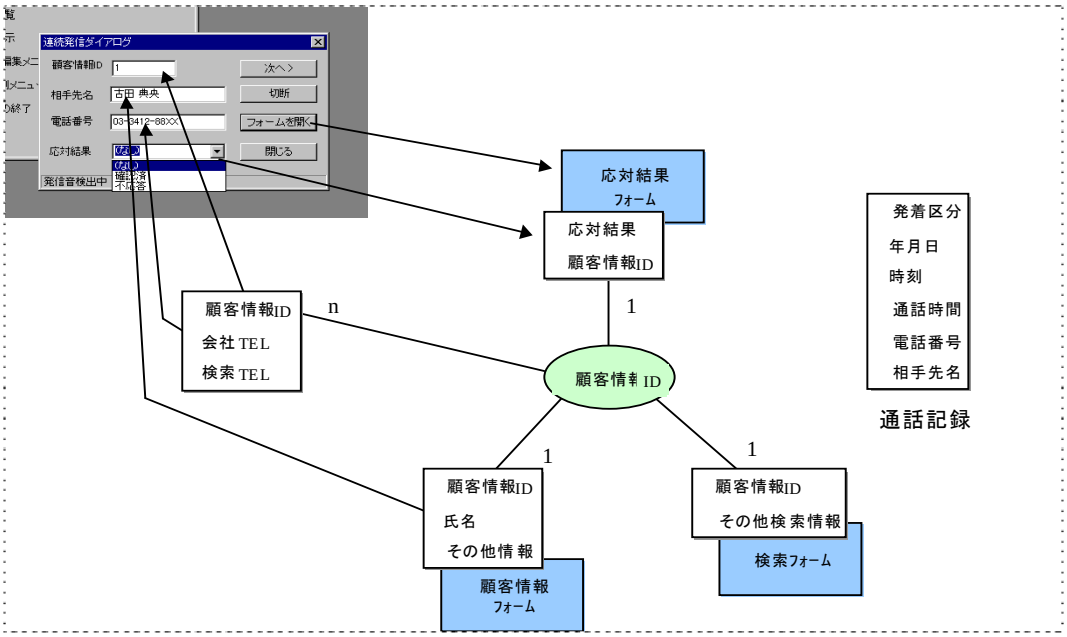
5.17.1 Microsoft Access サンプルデータベースファイルの構成

添付している Microsoft Access のサンプルデータベースファイルは下図のようなデータ構造となっています。

このサンプルデータベースファイルを、お客様が必要に応じて、改良、変更していただくことにより、実際の業務に適した内容に合わせることが可能です。



[着信時の動作]



[連続発信時の動作]

5.17.2　データを共有する方法

複数のパソコンで、データベースを共有する場合の標準的な設定は以下の通りです。

※　この方法は Microsoft Access 2000 ランタイム版ではご使用になれません。製品版をご用意ください。

※　Microsoft Access の仕様で、Access データベースファイル(mdb)にリンクテーブルを設定して複数のユーザでアクセスすると、2 人目以降のユーザーのパフォーマンスが落ちる場合があります。この現象を回避するには、Autoexec マクロを使用します。

1. リンク先のデータベース(mdb)にてからのダミーの”test”テーブルを作成します
2. リンク元のデータベース(mdb)にて”test”テーブルにリンクを設定します
3. リンクした”test”テーブルを基にダミーの”test”フォームを作成します
4. 以下のAutoExec マクロを作成します。

   アクション：フォームを開く

   アクションの引数

   フォーム名：test

   ビュー：フォームビュー

   データモード：読み取り専用

   ウィンドウモード：非表示

詳細については、Microsoft の下記のURL を参照してください。

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;838670&Product=accJPN

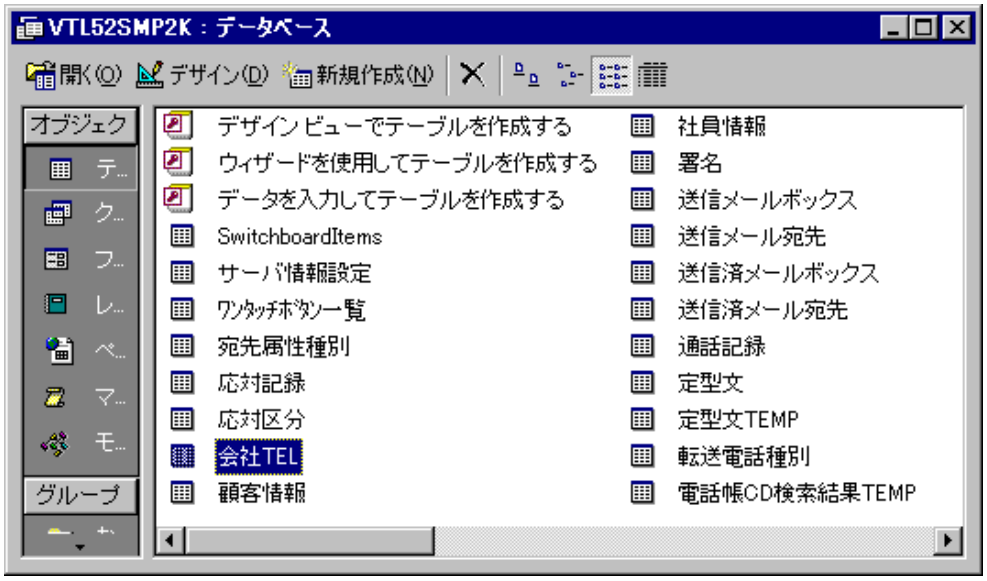
まず、サンプルデータベースを、ご使用になるファイルサーバと各クライアントにコピーします。

以下、サンプルデータベースの「会社 TEL テーブル」と「顧客情報テーブル」、および「社員情報テーブル」を共有する方法について、順を追って説明します。

・ テーブルの削除

データベースのテーブル一覧を開き、「会社 TEL テーブル」と「顧客情報テーブル」、「社員情報テーブル」を削除します。

(テーブル名を選択後、右クリックし、メニューの中から削除を選択してください)



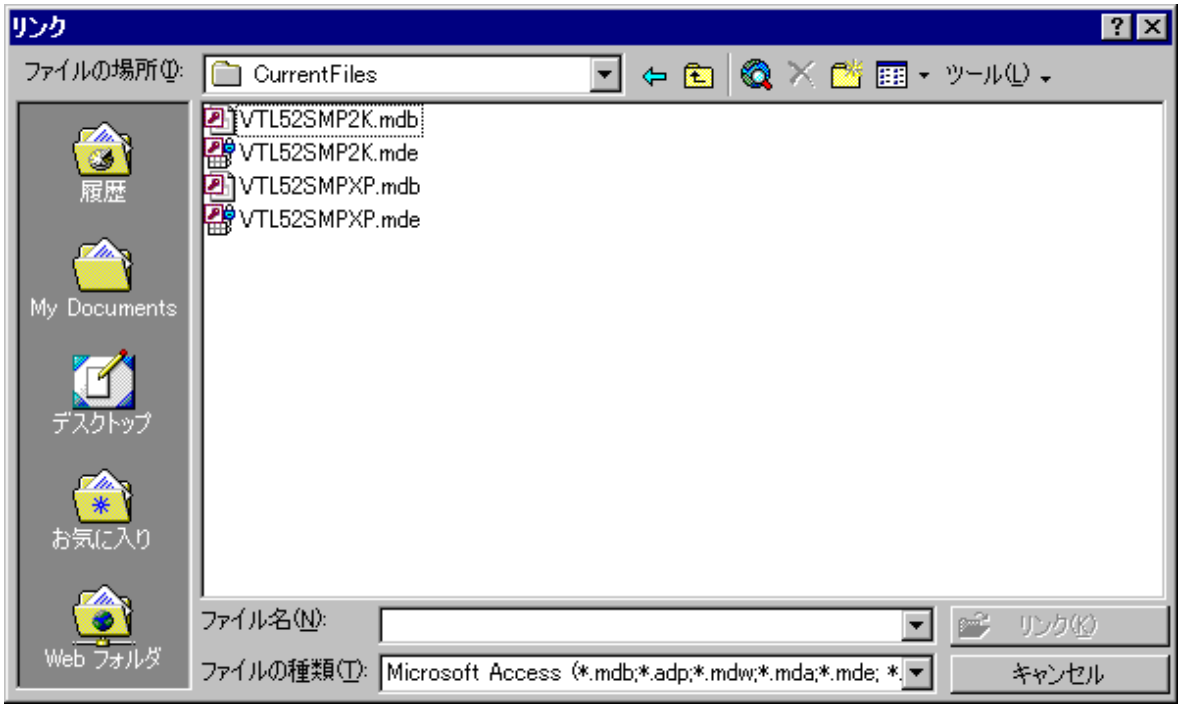
・ テーブルの新規作成。

上記画面で「新規作成」をクリックすることにより下の画面が表示されますので、ここで「テーブルのリンク」を選択し、「OK」をクリックしてください。

・ データベースの選択

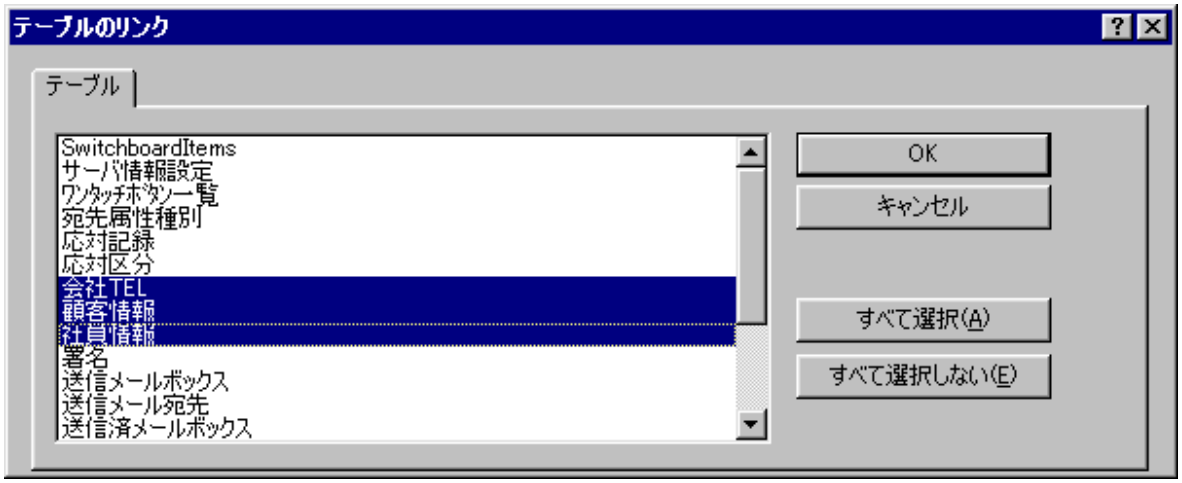
リンクを張るデータベースファイルを指定します。

データベースファイル名を選択して、「リンク」をクリックしてください。



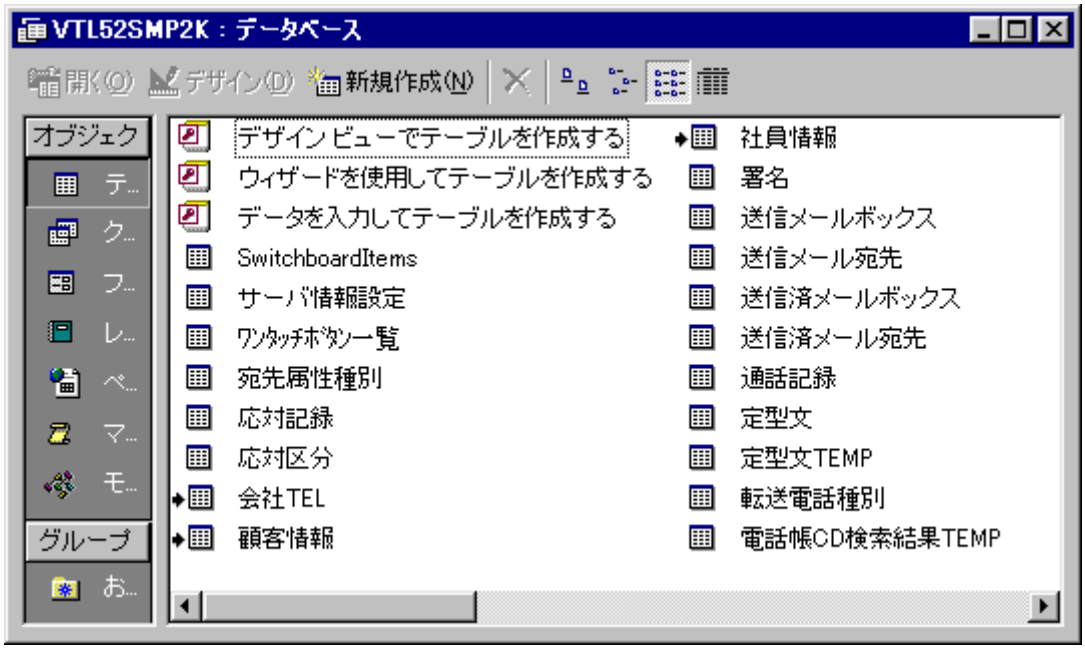
・ テーブルの選択

リンクを張るテーブル(この場合は「会社 TEL」、「顧客情報」、「社員情報」)を選択して「OK」をクリックしてください。



・ リンクの確認

リンクを張ったテーブルは下図のようにテーブル名の左側に矢印マークがつきますので確認してください。



・ リレーションの設定

リンクを張ると、リレーションが削除されるので、リレーションの設定を行います。

まず、ツールバーの「リレーションシップ」をクリックしてください。

リレーションシップ設定画面が表示されます。ここで、顧客情報テーブルと応対記録テーブル、顧客情報テーブルと応対区分テーブルにリレーションを設定します。

※「会社 TEL テーブル」と「顧客情報テーブル」、「社員情報テーブル」はリンクした時点でリレーションされています。

まず、顧客情報テーブルと応対記録テーブル間の顧客情報 ID のリレーション設定を行います。顧客情報テーブルの顧客情報 ID をドラッグし、応対記録テーブルの顧客情報 ID でドロップします。

リレーションシップ（詳細設定）画面が表示されます。

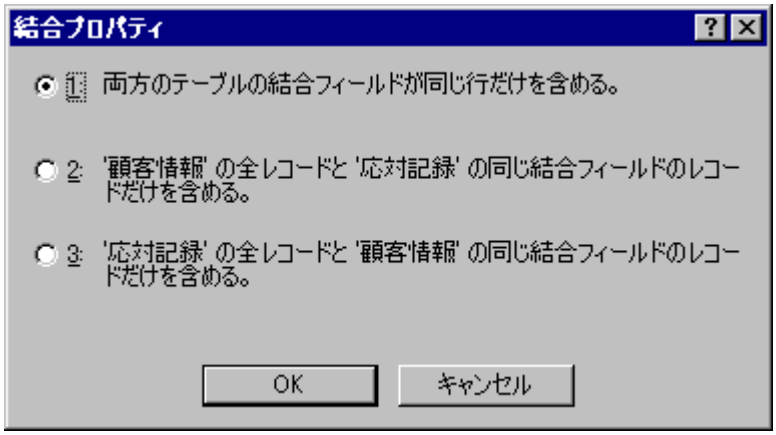
顧客情報テーブルと応対記録テーブルのリレーションフィールドに顧客情報 ID 以外が設定された場合は、「リスト表示ボタン」をクリックし、「フィールドリスト」から顧客情報 ID を選択し、顧客情報テーブルと応対記録テーブル間を顧客情報 ID でリレーション設定します。

リレーション「リスト表示ボタン」は「リレーションフィールド」を選択すると表示されます。

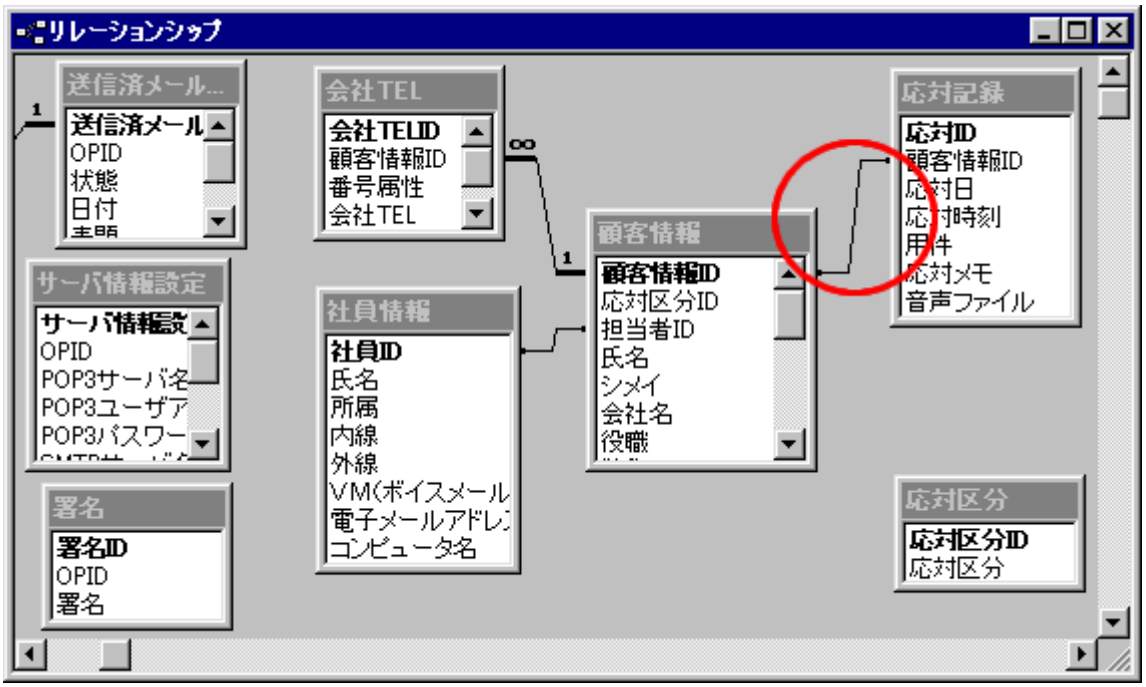
次に、結合の種類を選択します。「結合の種類」をクリックしてください。

顧客情報テーブルと応対記録テーブルの場合は「両方のテーブルの結合フィールドが同じ行だけを含める。」を選択し、「OK」をクリックしてください。

リレーションシップ（詳細設定）画面が表示されます。全ての設定が終了していれば、「作成」をクリックしてください。



これで、顧客情報テーブルと応対記録テーブルがつながりました。



同様に顧客情報テーブルと応対区分テーブルをつなぎます。

設定は以下の通りです。

リレーションフィールド ： 両テーブルとも応対区分 ID

結合の種類 ：「‘顧客情報’の全レコードと‘応対区分’の同じ結合フィールドのレコードだけを含める。」

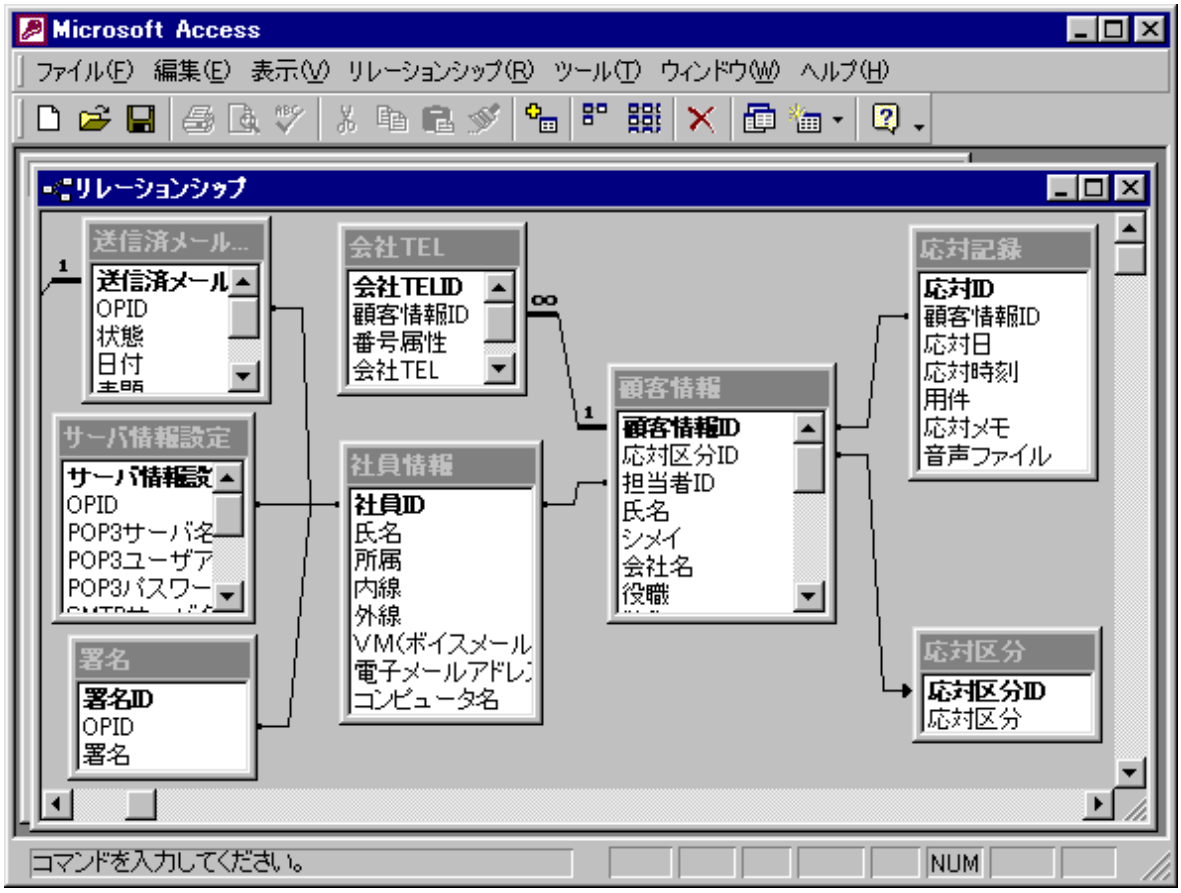
さらに、社員情報テーブルと送信済メールボックステーブル、サーバ情報設定テーブル、署名テーブルをつなぎます。

設定は以下の通りです。

リレーションフィールド ： 社員情報テーブルは社員 ID

その他のテーブルは OPID

結合の種類 ：「両方のテーブルの結合フィールドが同じ行だけを含める。」



リレーションの設定が全て終了したら、リレーションシップ設定画面を閉じてください。

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックして変更内容を保存してください。「いいえ」をクリックした場合、変更内容は破棄されます。

以上で、データベースの共有の設定は完了です。

以降、各クライアントで、顧客データ、電話番号、社員情報を修正した場合には、ファイルサーバのデータが更新されます。

※「通話記録テーブル」と「SwitchboardItems」は、共有を行わないでください。

また、Microsoft Access のバージョンが異なるデータベース同士はリンクしないでください。

5.18　不応答着信記録

応答しなかった着信についても、通話記録を行うことができます。

この機能をご使用になる場合には、「4.3 Microsoft Access サンプルデータベースファイルのインストール」でインストールしたサンプルデータベースファイルが必要です。

ViewTalk Light の環境設定で通話記録を行なうよう設定し、さらに、通話記録フォームの「不応答着信を行なう」のチェックを入れることにより、不応答着信記録を開始します。

不応答着信の通話記録は、発着区分には“不応答”と登録されます。また、年月日、時刻には着信した年月日、時刻が登録されます。

但し、次に示す注意事項がありますので、これらをご了解いただいた上でご使用ください。

・パソコンが接続された電話機に着信表示（LED点滅、LCD表示）を行なう全ての着信において、不応答の場合に記録を残します。
・相手呼放棄だけでなく、他の電話機で応答した場合も記録を残します。
・通話中の着信は記録に残りません。
・着信中の着信において、先の着信が呼放棄もしくは他の電話機で応答する前に後からの着信が呼放棄された場合、後からの着信は記録に残りません。
・本設定を有効にしている場合は、通話記録に登録する頻度が高くなります。
通話記録がいっぱいになる前にファイルへの出力を行なうようにしてください。

本機能は、夜間の着信記録を残す場合等に使用し、昼間はこの機能が動作しない様にチェックボックスのチェックを外すことをおすすめします。

また、昼間にこの機能を使用する場合は、電話機に不応答着信記録を残したい回線のみをボタン割り付けすることをおすすめします。

6　ご使用上の注意

6.1　データベースのバックアップ

ViewTalk Light は、お客様のデータベースを利用したテレフォニーアプリケーションです。

万一、障害等が発生した場合のデータベース保護のために、データベースのバックアップは必ずお取りください。

6.2　ViewTalk Lightご使用上の注意

ViewTalk Light から発信操作(連続発信を含む)を行った場合、ダイヤル中(併設電話機にダイヤル数字が順次表示されている状態)では、切断操作や、他の操作ができない場合があります。

この場合には、ダイヤル終了後に「切断」をクリックするか、併設電話機で受話器を一度上げて降ろす等の切断操作を行ってください。

ツールバーの電話番号表示エリアに、電話番号以外の表示が行われることがありますが、故障ではありません。

ViewTalk Light 起動時には、併設の電話機に着信が入っていないことを確認の上、起動してください。着信中に起動しますと着信表示が正しく行われないことがあります。

併設の電話機で通話中に、ViewTalk Light から発信操作を行うと通話が切断される場合があります。

6.3　主装置の機能についての注意

ViewTalk Light はパソコン上のアプリケーションと連携した発信や着信をサポートするものです。

主装置の豊富な電話機能アプリケーションの内、保留、転送、会議通話等については、ツールバーに通話相手の番号や名前が正しく表示されない場合があります。

また通話記録についても正しく記録されないことがあります。

詳しくは主装置をお買い求めになった販売店にお問い合わせください。

©NEC Infrontia Corporation 2002-2008